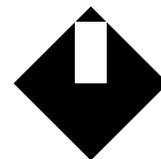


公認会計士稲門会



「公認会計士稲門会・会長報告」 「この1年の活動のご報告」



すぎた じゅん
杉田 純

(1974年 商学研究科修士課程修了)

「新しい公認会計士稲門会への第一歩の1年」

昨年7月の総会で会長にご選任頂き、1年間暗中模索の中で会長職を務めさせて頂きました。幸い前任の藤田会長始め多くの役員・会員の皆様のご支援、ご協力も頂きよちよち歩きでしたが、何とか会務をこなすことができました。この1年間は昨年7月6日の総会で初めてのオンライン総会を開き、続く9月、12月、本年6月の役員会や広報部を始めとする会務上の会議もほぼすべてオンライン開催という異常な1年間でありました。最も残念なことは、オンライン会議の後では、コミュニケーション上極めて重要な大学の先生方も参加頂くような2次会を一度も開催できなかったことでもあります。これは会発足から39年になる公認会計士稲門会の歴史上初めての経験でもありました。このことの弊害は会員の皆様方も3年に及ぶコロナ禍の中でご自身の業務でのご経験の通り、やはりオンライン会議だけでは、役員・会員の間での親密感、一体感を醸成できなかった1年でもありました。

現在、日本経済は3年を超えるコロナ禍で一部飲食、観光サービス業が大打撃を受けており、他方、電機関連の製造業、資源関連の川上の業種を中心にして、多くの上場企業が昨年12月の第3四半

期までは好調を保ってきたようです。ところが、本年2月24日の突然のロシアのウクライナ侵攻による大きな悲劇が始まって以来、石油、石炭、天然ガスなどの資源価格、小麦価格などの輸入価格の急激な高騰に端を発する極めて深刻な企業物価上昇が始まっております。加えて、米国の金融引き締め政策からドル高円安も加速しております。今後企業物価は更に急高騰しそうであり、オイルショック時（1980年）の企業物価上昇率10%を42年ぶりに超える予想もされております。このため、日本・世界経済は今後大きな隘路であるスタグフレーションつまり景気後退とインフレの同時進行に直面する可能性も指摘されております。今こそ多くの企業の指導的立場にある私たち公認会計士が真に指導的役割を発揮しなくてはならない時が来たと思われまます。

以上の状況の中で、公認会計士稲門会のこれからの課題は更なる時宜を得た方針により適切な方向性を確立し、稲門会の活性化を目指すことと考えております。そこで、次年度においては、従来からの最重要事業である留学生に対する奨学金の対象に「アジア・パシフィック」だけでなく「ウクライナ他の難民」を加えることを検討したいと思っております。又、本年新設した「企業内会計士部会」と「女性会計士部会」は積極的な活動を開始して頂いており、稲門会会員に新風を吹き込んで頂いておりますが、本年3月2日の早大代議員会における総長講話の中で田中愛治総長は従来大学の将来計画に新たに「カーボンニュートラルの研究推進」や「起業支援」をテーマに早稲田大学にベンチャーキャピタルを設立する旨のご発言がありました。そこで、新たな部会としてスタートアップ企業支援の「起業支援アクセラ部会」の新設も検討させて頂こうと思っております。今後役員会の承認を得た上で推進させて頂こうと思

ております。

「この1年間の活動報告」

1. 定時総会の開催

2021年7月8日開催の定時総会は従来の恒例の開催場所である大隈会館がコロナ禍の自粛要請から使用禁止となり、初めてオンラインにより開催されました。総会ではウェブ参加の会員により会務報告、会計報告、監査報告、事業計画が原案通りに承認され、次いで、前藤田会長の任期満了に伴い新会長として杉田純氏の選任が承認され、奨学事業委員会委員長に前小西彦衛氏の急逝（'21年1月13日）に伴い山田眞之助氏の選任が承認されました。総会後の懇親会が開催できず、稲門会総会では年1回程度しか会えない同期、先輩、後輩、大学の諸先生方とのお話しもできず、誠に残念でした。

2. 役員会の開催

(1) '21年9月29日開催役員会一

新組織体制、新役員、退任役員の承認、11名の新常任幹事の選任と9名の任期満了幹事の退任が承認されました。新組織として、

「企業内会計士部会（副会長 脇 一郎）」

「女性会計士部会（副会長 種田ゆみこ）」

の設置も承認されました。

(2) '21年12月23日開催役員会一

21年度公認会計士試験合格者祝賀会開催の件（校友会からの自粛要請もあり後日中止決定）、ファイナンス稲門会との共催セミナー「サステナビリティガバナンスー気候変動対応リスクの非財務情報開示はどうする（'22年3月7日実施済）」開催決定、ホームページのリニューアルの方向性についてなどが論議されました。

3. 会務関連行事

(1) 企業内会計士部会

企業内会計士部会は、本年度より新設された部会となります。担当副会長脇一郎氏、常任幹事中村淳一郎氏、崎山謙治氏、橋場信氏、抜水信博氏の5名がメンバーです。近年では、企業に所属する公認会計士が急増しており、2021年12月末現在、日本公認会計士協会（JICPA）の組織内会計士ネットワーク会員（正会員）は2,740人、社外役員ネットワーク会

員（正会員）は1,544人、単純合算で4,284人、公認会計士正会員全体の12.9%（33,211人）となっており、業界内でも主要なグループとなっています。企業内会計士部会では、公認会計士を目指したい学生向けの相談窓口を開設し、キャリア相談などを行っていきたいと考えています。すでにFacebookを開設しておりますので、ぜひご参照ください（'22年4月稲門会メールニュース13号より転載）。

企業内会計士部会Facebookページ：

<https://www.facebook.com/groups/681180423039929>

(2) 女性会計士部会（ワセジョ会計士NW）

本年度新設の女性会計士部会は担当副会長種田ゆみこ氏、常任幹事園マリ氏、藤森恵子氏、茶田佳世子氏、野田優子氏の5名のメンバーです。'21年度の公認会計士試験最終合格者数1,360人のうち女性は297人で、女性比率21.8%（2019年24.4%、2020年23.7%）、うち早稲大学・大学院出身の補習所登録者数は135人のうち女性24人で女性比率17.8%（'19年19.1%、'20年22.2%）と全国平均より低くなっております。早稲田は他大学に比して女性合格者割合が低いといわれています。確かに、早稲田在学女性17,117人、女性比率37%に比べて少ないので、会計士協会同様に女性合格者比率3割目標に早稲田全体の合格者数増と、会計士を目指す女子学生の増加に向けて、ワセジョ会計士NWも大学と連携して取り組むことになりました（'22年4月稲門会メールニュース13号より転載）。

4. 会員の親睦 ゴルフ懇親会

コロナ禍で本年度は一度も活動しておりませんが、ゴルフだけプレーすることは可能であったのですが、不本意ながら自粛しておりました。'22年は新型コロナウイルスの状況を見ながらとなりますが活動を再開予定ですので奮ってご参加ください。主な予定は次の通りです。'22年8月早慶戦、9月公認会計士稲門会コンペ、10月1日（土）東京会十月会ゴルフ 東松山カントリークラブ（従来同様、パーティ付きで3年ぶりに開催予定）。

5. 大学・校友会関係

(1) 試験合格者へのお祝いと記念品の贈呈一

コロナによる自粛要請から、'21年度の試験合格者の祝賀会の取り止めに伴い、3月下旬に126名（別に早大大学院のみ修了の方14名）の合格者へ「お祝いの言葉」と「記念品」を贈呈させて頂きました。

- (2) ファイナンス稲門会との共催セミナーの開催—
 '22年3月7日に公認会計士稲門会とファイナンス稲門会との共催によるウェブセミナーが「サステナビリティガバナンス—気候変動対応リスクの非財務情報開示はどうする？」というテーマで開催され、100名を超えるウェブセミナーの参加があり、大変盛況で、好評価を参加者から頂きました。セミナーは対談形式のため、講師はWICI（世界知的資本・資産イニシアティブ）会長の住田孝之氏と当稲門会会長の杉田純が務めさせて頂きました。
- (3) 大学院会計研究科学学位授与式と入学式への
 会長・副会長の来賓出席—
 '22年3月25日井深大記念ホールで行われた大学院会計研究科学学位授与式へ杉田純会長が来賓招待され、約100名の修了者へ祝辞を述べさせて頂きました。また、4月1日の同研究科入学式には脇一郎副会長が来賓招待され祝辞を述べさせて頂きました。
- (4) 商学学術院と日本公認会計士協会による
 公認会計士制度説明会への会長出席—
 '22年4月22日に日本公認会計士協会東京会主催の制度説明会が大学11号館で開催され、杉田純稲門会会長は、説明会の冒頭で早大での開催の御礼と公認会計士稲門会の活動状況をお話し、加えて多様化する公認会計士業務の魅力そして、稲門出身の公認会計士の業界内での活躍をお話しさせて頂きました。
- (5) 早稲田大学商学部からの
 税務会計論講師の推薦依頼—
 昨年まで、早稲田大学商学部へは当稲門会から推薦で「税務会計論I」（春学期）の講師として柳岡泰明氏、「税務会計論II」（秋学期）の講師として堀秀行氏に担当して頂いておりましたが、柳岡氏については任期満了のため、新学期から「税務会計論I」の新担当として田村亮人氏（'10年法卒、関東財務局統括証券監査官）を推薦させて頂きました。
- (6) 公認会計士稲門会奨学生の決定について—

早大学生部奨学課池谷部長より昨年12月に3名の推薦を受け、推薦された全員を奨学事業委員会（山田真之助委員長）と会長、副会長と協議の上、承認致しました。

- 任毅（ニンキ）様
 （先進理工学研究科修士2年、中国）、
 - KIM HAYEON（キム ハヨン）様
 （教育学部3年、韓国）、
 - RUMOKOY, Farlane stevie
 （ルモコイ フェーレン スターヴィー）様
 （商学研究科博士3年、インドネシア）
- の3名です。
- (7) 衛藤、吉野代議士の'21年10月の選挙陣中見舞い—
 日頃、公認会計士稲門会の応援をしてくださっている、吉野正芳代議士（福島5区）、衛藤征士郎代議士（大分2区）が10月の衆議院選挙小選挙区で当選されました。公認会計士稲門会の有志一同による陣中見舞いもさせて頂きました。
- (8) ホームページの更新—
 公認会計士稲門会のホームページが'21年11月3日に更新されました。新役員、新組織などはHP <http://www.cpa-tomonkai.jp/> でご確認ください。
 ホームページについては、今後イベント情報やセミナーの案内・録画などの配信もできるようにリニューアルをしていく予定です。
- (9) 薄井彰早稲田大学商学学術院教授が
 日本会計研究学会新会長に—
 以下、公認会計士稲門会メールニュース12号へご寄稿頂いた薄井先生からのご挨拶を転載します。
 「2021年9月に日本会計研究学会会長に仰せつかりました早稲田大学の薄井彰です。青木茂男先生、染谷恭次郎先生、新井清光先生に続く4人目の本学出身の会長となります。大変な名誉であるとともにその重責に身の引き締まる思いです。日本会計研究学会は、1937年に創設され、会員約1,700人を擁する社会科学領域でも有数の学会です。新体制では、
- 〈1〉日本会計研究学会と会計関連学会の連携の強化
 - 〈2〉次世代会計研究者の育成ならびに会員の会計研究力および教育力の強化

〈3〉会計研究・実務における学界と実務界の連携の強化

を目指しております。今日、テクノロジーの進展と学術的なイノベーションは著しく、実務界と学界の共創が不可欠になっています。早稲田会計学の伝統を継承し、発展させるべく尽力する所存ですので、公認会計士稲門会の先生方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。」

できなかったことです。ぎりぎりまで頑張ってみました。が、大学校友会からの自粛要請もあり残念ながら3年連続で開催を見送りました。又、同様に総会、役員会もすべてがオンラインでしか開催できず、会員・役員の皆様との素晴らしい親睦やコミュニケーションの場の設定が出来なかったことが悔やまれます。次年度はコロナ禍が緩和され、以前のようにたくさんの早稲田を愛する皆様とのコミュニケーションの場を持てますことを祈念しております。

6. 本年度の反省

何よりも3年連続で試験合格者の祝賀会を開催

令和4年 定時総会(オンライン)のお知らせ

本年度の定時総会でございますが、校友会からなるべくオンラインでの総会を勧奨されておりますことから、定時総会は ZOOM を利用したオンライン(以下、「オンライン総会」)で開催させていただくことにいたしました。懇親会は実施しません。

つきましては、オンライン総会のご案内をより多くの会員にお届けさせていただきたく、メールアドレスのご連絡先を会報へ同封の「出欠表」の記載要領にて、下記問い合わせ先まで FAX 送信、または電子メールでお送りくださいますようお願い申し上げます。

なお、稲門会メールニュースを受信しておられる会員にはそのアドレスに、年会費の払込取扱票か「出欠表」にメールアドレスをご記入いただいた会員にはそのアドレスに総会の議案書とオンライン総会開催要領(ZOOMのURLを含め)のご案内を差し上げます。

総会日時：7月5日(火) 18時から ZOOM 利用で開催

総会参加のアドレスの受付：6月30日をもって締め切らせていただきます。

— お問合せ先 —

三優監査法人 杉田 純 (吉田)

電話 03-5322-3531

FAX 03-5322-3593

E-mail cpatomonkai@bdo.or.jp

「公認会計士稲門会奨学事業」

－令和3年度奨学事業報告－



(奨学事業委員会委員長)

山田 眞之助

(1980年商学部卒業)

奨学事業を支えていただいている皆様には敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。2021年1月にご逝去された小西彦衛委員長のご意志を継いで本事業を進めてまいります。

新型コロナウイルスの環境下で学生の生活にも困難が及んでいる状況から本学は生活支援策を講じ、その実施のために奨学金制度を設けています。

アジア地域から早稲田に学ぶ留学生を支えることは、本学が草創期から今日までアジアとの人材交流に重きを置いていることから、また近隣諸国との将来にわたる相互理解の布石として有意義なことと存じます。

奨学生は学業と研究に熱心に取り組んでいます。アルバイトの時間を勉強にあて、奨学金を学費や書籍購入にあてるなど、皆様からいただいた奨学

金は確実に活かされています。また奨学生には日本国内での国際交流と、母国と日本との懸け橋になる意欲を感じます。

2021年9月29日開催の役員会で、中国1名、韓国1名、中国・韓国以外のアジア地域の諸国から1名、計3名を毎年の奨学生とすることにさせていただきました。なお、ウクライナからの奨学生については別途皆様とご相談させていただきます。

奨学資金は、「広く軽く」を基本方針とし、より多くの皆様に無理のない範囲でのご支援をお願いしております。引き続き本奨学事業のために皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。早稲田大学のWebサイトから寄付できます

奨学資金は早稲田大学への寄付金として納付していただき、総長名の領収書と所得税の寄付金控除にかかる証明書が発行されます。寄付金の申し込み方法は、Webサイトからの申し込みと専用振込用紙による振り込みの二通りです。

早稲田大学のWebサイトから常時寄付申し込みができます。【早稲田 寄付】検索で寄付トップ画面に入ります。寄付申込みフォームにインプットする際に、「寄付の種類」は「奨学金」を選び、「指定先」は「公認会計士稲門会奨学金」を選びます。支払方法はクレジットカード又はページ（インターネットバンキング決済）です。

もう一つは専用振込用紙で大学の銀行口座に振り込む方法です。公認会計士稲門会の会費振込口座とは異なりますのでご注意ください。

令和3年度の事業実績

1. 奨学金の給付状況

大学より次の3名を推薦いただき、各人に50万円を給付しました（学年は給付時）。

ニン キ	(任毅)	先進理工学研究科	修士2年	中国
キム ハヨン	(KIM HAYEON)	教育学部	3年	韓国
ルモコイ ファーレン スティーヴィー	(RUMOKOY, Farlane stevie)	商学研究科	博士3年	インドネシア

2. 奨学事業収支年度別一覧

(単位：万円)

年 度	H3～H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	累 計
寄付金収入	5,649	148.5	151	133	180	6,261.5
(寄付者数)	(1,736名)	(42名)	(49名)	(46名)	(42名)	(1,915名)
奨学金給付額	5,400	150	150	100	150	5,950
(奨学生数)	(108名)	(3名)	(3名)	(2名)	(3名)	(119名)
資金繰越残高	249	247.5	248.5	281.5	311.5	

3. 令和3年度寄付者芳名(順不同・敬称略) 令和4年3月31日現在

RSM 清和監査法人	関口 典子	佐藤 正典	杉田 純	渡辺 俊之	尾崎 隆昌
ジャパン・ビジネス・ アシユアランス(株)	関根 愛子	山口 敏明	西山 隆司	湯川 喜雄	服部 将一
吉村 智明	久保 直生	種田ゆみこ	袖山 裕行	藤田 世潤	堀 秀行
稲垣 直明	近野 博	渋谷 道夫	中島 雄一	内田 善三	堀内 三郎
稲葉 武彦	金田 賢二	勝島 敏明	津田 英嗣	八鍬 賢也	鈴木 豊
鴛海 量良	古谷伸太郎	小林 尚明	塚田 知信	飛永 信雄	高田 智史
奥山 章雄	戸田 厚司	松下八寿彦	山田眞之助	匿名2名	以上、42名

公認会計士稲門会ホームページについて

公認会計士稲門会では2012年10月にホームページ(以下「HP」)を開設しました。

トップページの「TOPICS & NEWS」で、会報やその時その時のニュースを掲載し、「公認会計稲門会とは」ページで会長あいさつや早稲田大学出身合格者の推移を公表するなどの情報発信を行ってきました。また、「お問い合わせ」ページから、新規の入会登録をすることや、住所等の変更を事務局へ連絡することのできるHPになっています。

これらの内容・機能を引継ぎつつ、①ホームページ開設時には無かったPC以外のスマホやタブレット画面への対応及び②平易なコンテンツ管理システム「ワードプレス」を利用したより更新のし易いHPへの刷新という取組みを進めています。

刷新できましたら、また会員の皆様へご報告したいと思います。

(広報常任幹事 抜水信博)

< 公認会計士稲門会HPのURL : <http://www.cpa-tomonkai.jp/> >

会費納入のお願い

今年も会費納入の季節となりました。同封致しました振込用紙で振込頂ければ幸いです。なお、日本公認会計士協会準会員の方は印字されている金額を3,000円にご訂正の上で振込頂けます。なお、ご自身の会費納入状況をお知りになりたい方は、以下の連絡先へメールかファックスでお問い合わせください。

公認会計士 6,000円 日本公認会計士協会準会員 3,000円

(他金融機関からの振り込みの場合、口座名：公認会計士稲門会

郵便振替口座番号 019店 当座 0163893 となります。

ゆうちょ銀行同士では、口座番号は00170-2-163893です。よろしくお申し込み申し上げます。)

— お問い合わせ先 —

三優監査法人 杉田 純(吉田) FAX : 03-5322-3593 / E-mail : cpatomonkai@bdo.or.jp

「早稲田大学大学院 会計研究科の取組み」



秋葉 賢一

(早稲田大学大学院会計研究科教授)

4年ほど研究科長をしている会計研究科（略して「会計研」と呼んでいます）では、本年3月25日の学位授与式において、杉田純公認会計士稲門会会長をご来賓にお迎えして、16期生100名に対し学位記を授与いたしました。

今般、杉田会長から、寄稿のご依頼を受け、日頃、お世話になっている公認会計士稲門会の皆さまへ改めて御礼申し上げるとともに、会計研での取組みを紹介させていただきます。

会計大学院とは

会計大学院は、会計プロフェッショナルを養成する2003年度創設の専門職大学院の1つです。専門職大学院は、理論と実務を架橋した教育を行うことを基本としつつ、以下などについて定められています。

- 少人数教育、双方向的な授業、事例研究などの実践的な教育方法をとること
- 研究指導や論文審査は必須としないこと
- 実務家教員を一定割合置くこと

こうした中、2005年に開設された会計研は、アカウントティング・マインド（自ら問題を発見し、高潔な倫理観と高度な専門知識をもって問題解決にあたる姿勢）の醸成を図り、また、会計の知識に加えて自分の得意分野をもち、活躍のフィールドを拓げるといふ「会計+1（プラスワン）」というコンセプトの下、カリキュラムを構築し実践しています。

提携講座の設置

2022年度においては、監査法人による5つの提携講座をはじめ、全部で12の提携講座を設置し

ています（以下、順不同）。

- 有限責任あずさ監査法人「会計・監査の最新実務」
- EY新日本有限責任監査法人「金融機関のガバナンス・リスク管理・コンプライアンス」
- 太陽有限責任監査法人「IPO実務」
- Mazars有限責任監査法人「ESG・サステナビリティ開示入門」
- PwCあらた有限責任監査法人「グローバル会計入門」
- 株式会社 KPMG FAS「事業再生実務」
- ジャパン・ビジネス・アシュアランス株式会社「経理部門における内部統制とガバナンス実務」
- デロイト トーマツ コンサルティング合同会社「CFO組織の未来像」
- デロイト トーマツ コンサルティング合同会社「CRM実務」
- EY税理士法人「グローバル企業へのタックスコンサルティング」
- 株式会社 野村資産承継研究所「事業承継コンサルティング入門・実践」
- 公益財団法人 アジア生命保険振興センター「生命保険の理論と経営」

その他、実践的・応用的能力を磨くための科目において、公認会計士や税理士をはじめ多くの実務家の方々に、非常勤講師として専門家育成に携わっていただいております。

アクチュアリー専門コース

会計研では、前述した「会計+1」のコンセプトの下、アクチュアリー関連科目を提供してきており、2019年4月には、文理融合の理念の下、これを充実させ、アクチュアリー養成を推進すべく「アクチュアリー専門コース」を開設しました。実務面では、退職給付の分野や保険会社の監査を中心に、公認会計士とアクチュアリーは連携することも多く、少数ですが両方の資格を有するダブルホルダーも輩出しています。

2022年4月1日の入学式では、JBAホールディングス 代表取締役グループCEOの脇 一郎様をご来賓とし、会計専門コース89名、アクチュアリー専門コース23名、高度コース3名の合計115名を迎えました。引き続き、公認会計士稲門会の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「皆様いかがお過ごしでしょうか？」



関根 愛子
(商学学術院教授)
(1981年理工学部卒業)

皆様こんにちは。2019年に日本公認会計士協会の会長を退任し、その後のコロナ禍もあり、お会いできる機会がめっきり減りましたが、いかがお過ごしでしょうか？

私の方は現在、早稲田大学商学部で1年生に基礎会計学、3年生に会計監査論を教えると共に、3、4年生のゼミを受け持っています。あわせて、商学研究科で財務諸表監査研究の講義を、会計研究科で会計専門家の実務についてのワークショップを行っています。

大学で会計や監査を学んでいなかった私が、機会を頂き大学で教えることになったのは、これまでの業務を通じて会計や監査の重要性を日々感じる中で、公認会計士を目指す学生はもちろんのこと、卒業後様々な仕事をしていく学生にも、実務でいかに必要かを感じながら興味を持って学んでほしいと考えていたためです。しかしながら、入学したばかりの1年生の殆どは会計そのものに馴染がなく、私の話をきいて「レストランで何故『お会計』』というのかわかった」というような状況であり、実務経験のない学生への説明はなかなか難しく、2年目となった今も日々奮闘しているところです。

それでも、初めて学ぶ会計、そして、公認会計士試験に興味を持つ学生も多くいますので、そうした学生の応援活動も行っており、公認会計士稲門会の教務担当副会長として、教員の方々との交流と共に、稲門関係者の会計士試験合格者の増加にも寄与できればと思っています。また、商学部も女子学生が4割近くとなっていますが、早稲田出身の公認会計士試験合格者の女性比率はそれよりかなり低いため、稲

門会女性会計士部会と共に公認会計士協会の目標である3割を目指しているところです。

自らの子供というより孫に近い世代の学生は、まだまだ成長著しく、1年生と3年生、4年生、そして大学院生では同じことを話しても反応が異なり、学生から学ぶこと、教えられることも多く、新鮮な日々を過ごしています。

あわせて、上場会社の社外取締役や監査役等をつとめており、変革が激しい現代の実務からも日々学んでいるところです。その他、国内外の委員会等にも携わらせておりましたが、例えば、企業会計審議会の委員を任期満了で退任した後は、財務省の財政制度審議会の臨時委員として、国の財務書類や独法の会計・監査基準等、これまでとは異なる分野での議論にも興味深く関わっています。

このように、監査法人、そして会長時代とはかなり異なる業務を行っている毎日ですが、こうした切り替えも、会長退任後、1年近くのリフレッシュの期間があったからこそと思っております。少し廻りますが、退任後程なくして、真夏の東京を脱出し、青森へ、そして3週間程かけて北海道を一周しました。まるで学生時代の夏休みのような過ごし方でしたが、実は夏だけでなく、その後も断続的に国内外を旅してまわりました。アイスランドで1週間オーロラを鑑賞しつつ温泉で癒され、南米の世界遺産を半月かけて満喫し、今まで足を延ばせなかった日本各地の温泉を巡りました。おそらく殆どの皆様は、毎日仕事で忙しい日々を過ごされているのに…と少々申し訳なく思いつつも、旅の合間には旧交を温め、とゆったりと過していました。

とはいえ、2020年3月終わりからは、国際会議での出張が続き、6月以降は仕事を再開予定でしたので、大型休暇は南米から帰国した3月初めでピリオドを打ち、次の旅は夏休みに…と思っていたところ、コロナ禍のため、海外出張は全て夜（これは2年程続き、早寝の習慣がついた私には少々厳しいものでした）のウェブ会議に変更となり、巣ごもりが余儀なくされました。もっとも、その間自宅の引っ越しと片付けに専念したため、住環境もリフレッシュできました。

このような長い期間はしばらく難しそうですが、もう少しコンパクトな形でのリフレッシュを時々入れつつ、社会に貢献する公認会計士を続けていければと思っている今日この頃です。

「現在の仕事・起業家育成関連支援」



松田 修一

(商学博士 早稲田大学名誉教授)

(1967年商学部卒業)

昭和42年に卒業し、あっという間に55年が過ぎてしまいました。40歳まではいろんなことをして過ごし、その後1986年から2012年間、早稲田大学勤務を務め、75歳で長年お世話になった懐かしの公認会計士4051の番号とはお別れして、2022年になりました。40歳までの軌道とその後の仕事との関係を述べさせていただきます。

商学部3年生秋に①「青木茂男ゼミナール早稲田大学受験研究会」が大学院によって発足し、多くの仲間と共に勉強しました。29歳、石油ショックが始まり、銀行金融からの戦後のベンチャーに対して貸しはがしが頻発し、事業協力していた多くの商社金融に流れました。発足したばかりの②「監査法人サンワ事務所」で③「三井物産」等の取引先で調査する財務調査に従事しました。商社に基づく短期金融という時代で、多くの取引形態を学ばせていただきました。その後、日本発のベンチャーキャピタルの調査で④「JAFCO」を担当し、また⑤「日本アイ・ビー・エム」による経済成長と新規事業とを組み合わせ、いかに成長を支援するかをしてきました。特にこれら5社の方々にお世話になり、基盤づくりになりました。

1984年頃から非常勤で早稲田大学ビジネススクールで教えていました。その後1985年早稲田大学に常勤で来ないかとのお誘いを受けました。公認会計士を抹消してこいと大学の執行部とのやりとりがあり、抹消しないことを説得するのに半年かかりました。現在とは隔世の感がありました。

JAFCOの担当を経て、はじめて「ベンチャー」の存在を知り、これまで行っていた調査の多くは、戦前・第一次・第二次のベンチャーであったとい

うことを知りました。日本初のベンチャー調査を多くの方々に知っていただくために、公認会計士で若手の勉強会を始めました。また、お世話になった方々を集めて「企業経営研究会」を1988年に立ち上げ、海外留学を挟んで1993年に「早稲田大学アントレプレヌール研究会」(略称：ウエル)を清成忠男先生等の協力を得て立ち上げました。この延長線上に「日本ベンチャー学会」が立ち上がり、2代目会長を務めました。さらに大学研究会をメンバーに「ウエルインベストメント」を立ちあげ、現在大学認定のベンチャー支援も行っています。

他方、「1985:独立第三者による経営監査の研究」で学位をとることができ、その過程で監査の幅広い間口をしり、「監査は企業経営のスイッチである」ということを学びました。監査は、担保力のある資産を中心に構成されますが、監査を通して、与信管理や営業管理の妥当性、将来の市場を読んで意思決定をいかにするか等、「現場」に接近することがきます。「利は現場にある」と問うことを考え、その実態をとらえ、監査人は、在庫等の棚卸資産、売掛金や買掛金、そのたの資金や有形資産など、評価の妥当性を把握する義務があります。

さらに、財務情報よりも、既に費用に落とされている非財務情報を含む総合的価値が将来価値の提供をすることをより重視するようになりました。特に「GAFA + M」の圧倒的に強い収益力の源泉は、既存の資産価値ではなく、すでに費用として処理されている非財務価値がどの程度あるかが重要です。彼らは高い企業価値をベースに、その革新性や国際性を強化しています。これは、知的資本の可視化による統合報告書による経営として定着し、最近では日本経済新聞社がアワードとして表彰するにいたっています。欧州発から日本に2000年から導入され、大企業から中堅規模まで多くの企業で、新規事業のイノベーションツールとして採用されつつあります。

このようにベンチャー企業のスタートアップ支援と、将来価値を創出する新規事業支援とが両輪になりつつあります。監査法人による株主総会招集通知用の事業報告と有価証券報告書(有報)の非財務情報部分(前段)との統合の方向に向かうことに、共に挑戦し監査人の新たな監査を検討してみましよう。

「ワセジョ会計士NWこと女性会計士部会の活動報告と今後の活動予定」



種田 ゆみこ
おいだ
(女性会計士部会 副会長)
(1989年 商学部卒業)

★ワセジョ会計士NWこと女性会計士部会の発足皆様、こんにちは！2021年9月29日公認会計士稲門会役員会にて、最近の公認会計士業界を取り巻く激変する環境の変化を捉え、新たに稲門会組織に「女性部会」の新設が承認され、令和3年度公認会計士稲門会役員として、以下のメンバーが承認されました。

女性部会 (敬称略)		
副会長	種田 ゆみこ (大阪在住ゆえ、関西副会長もしています)	商
常任幹事	園 マリ	〃
〃	藤森 恵子	理工
〃	茶田 佳世子	第一文
〃	野田 優子	社学

さらに、

・教務副会長の 関根愛子さん (前日本公認会計士協会会長で現相談役、早稲田大学商学学術院教授)
・企業内会計士部会副会長の 脇 一郎さん (現日本公認会計士協会常務理事、早稲田大学会計大学院非常勤講師)

にもこの部会の顧問に加わって頂き、大学との連携などにご協力頂いています。

★幹事会

～2021年11月30日の第1回幹事

(オンラインで7人参加)の報告～コロナ禍の中ゆえ、初めての幹事顔合わせもオンラインでしたが、そこは人見知りなどしない“ワセジョ”ゆえ、女子会のごとく、先輩後輩も関係なく盛り上がり、下記を決めました！

- 1) 活動方針：網羅性よりも、最初は少数でも、NWに参加したいと思わせる魅力を出すことでメンバーを増やす
- 2) 広報ツール：SNSのうちFB(フェイスブック)を利用する
- 3) コンテンツ：参加したら何ができるかの魅力PRに、まずは幹事の短いコラムを掲載する
- 4) 参加資格：早稲田の大学・大学院など稲門であれば(卒業は問わず、男女も問わず)OK！
- 5) イベント：リアル交流と無料で手軽なオンライン参加も含むハイブリッドセミナーを企画
- 6) 大学との関係構築 オンライン寄付講座にOGとの対話の時間をミックス
- 7) その他：会計士三田会女性部会とも情報交換

～2022年2月9日の第2回幹事会

(リアル5人とオンライン3人)の報告～まだ「まんぼう」中でしたが、可能な方のみリアルに集合したら、コロナ禍でオンライン環境に慣れたとはいえ、リアルな会合は楽しく、意欲的な意見が沢山出て、下記を決めました！

- 1) 会計士を目指す学生のワセジョ受験生の増加を目指す

2021年公認会計士試験最終合格者数1,360人のうち女性297人で、女性比率21.8%(2019年24.4%、2020年23.7%)、うち早稲田大学・大学院出身の補習所登録者数は135人のうち女性24人で女性比率17.8%(2019年19.1%、2020年22.2%)と全国平均より低いゆえ、早稲田は他大学と比して女性合格者割合が低いといわれています。確かに、早稲田大学在学中の女性17,117人、女性比率37%に比べても少ないので、早稲田全体の合格者数増と会計士協会同様に女性合格者比率3割を目標に、会計士を目指す女子学生の増加に、ワセジョ会計士NWも大学と連携して取り組むことになりました。

■ 早稲田大学公認会計士試験合格者集計

		男性		女性		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
2021	全体	111	82.2%	24	17.8%	135	100.0%
	うち学部在学	48	81.4%	11	18.6%	59	100.0%
	学部在学生割合	43.2%		45.8%		43.7%	
2020	全体	84	77.8%	24	22.2%	108	100.0%
	うち学部在学	34	85.0%	6	15.0%	40	100.0%
	学部在学生割合	40.5%		25.0%		37.0%	
2019	全体	106	80.9%	25	19.1%	131	100.0%
	うち学部在学	27	65.9%	14	34.1%	41	100.0%
	学部在学生割合	25.5%		56.0%		31.3%	

2) 女性部会の幹事から順番に Facebook へのリレー投稿

内容としては、今の自分や仕事について軽く触れるものの、早稲田大学在学中～会計士に合格するまでを中心に記載する。前の投稿者の投稿後3週間くらいの目安で。

3) 関根愛子さんの講演会企画

「関根愛子先輩と話そう！」

時期はオミクロンが収まった頃、場所は早

稲田関連施設等、準備は会員のアドレスをコツコツ入手（補習所関係）予定。

★最後に

ワセジョ会計士 NW こと女性会計士部会では、公認会計士を目指したい学生及び現役の女性会計士のキャリア相談に役立つイベントを行っていきたいと考えています。すでに Facebook を開設しておりますので、ぜひご参加申請してください。

■ 公認会計士 稲門会「ワセジョ部会」Facebook ページ：

<https://www.facebook.com/groups/447086503596042>

「企業内会計士部会が新設されました
～多様化する活躍を支える「信頼」
で優秀な若手を引き込もう！～」



脇 一郎

(企業内会計士部会 副会長)

(1993年 商学部卒業)

公認会計士稲門会では、本年度から企業内会計士部会を新設しました。近年では、企業に所属する公認会計士が急増しており、2021年12月末現在、日本公認会計士協会(JICPA)の組織内会計士ネットワーク会員(正会員)は2,740人、社外役員ネットワーク会員(正会員)は1,544人、単純合算で4,284人、公認会計士正会員全体の12.9%(33,211人)に達し、業界内でも主要なグループとなっています。

公認会計士のキャリアは、多様化を極めていきます。従来は、監査法人勤務又は税務業務などを主体にして独立するのが主流でしたが、農協や社会福祉法人、医療法人などへの監査の拡充、財務捜査官などの公官庁勤務、企業内会計士も財務経理だけではなく、内部監査、経営企画、場合によっては経営者(社長、CFOなど)として活躍する公認会計士もいます。

実は、士業のなかで、これほどの多分野で活躍する例は少なく、多くの他の士業は専門分野に近い業務を行うことが多いのです。その意味で、公認会計士は、広く社会に信頼される資格集団であり、また大きく社会に貢献している士業グループであ

ることは間違いありません。このように、多分野にわたる公認会計士の活躍もあり、最近では、良い意味でも悪い意味でも、社会からの注目も高まってきています。

従来のマスコミニュースは、不正会計が起こった場合に、会計監査を担当している監査法人や公認会計士が取り上げられていましたが、最近の事例では、企業不祥事が起きると、その企業に所属している社外役員会計士や経理・内部監査などの企業勤務会計士なども取り上げられるようになりました。また、不祥事が起こった企業や組織の経営者が、公認会計士であることも取り上げられています。

私は、日本公認会計士協会の常務理事も務めております(2022年4月現在)が、日本公認会計士協会でも、社会から信頼される資格集団であるために、高い倫理的な行動、高いパフォーマンスを発揮するための持続的なスキル・資質向上、さらには我々の活動を社会に知ってもらうための広報活動など、あらゆる施策を積極的に行っています。過去には、デジタル化が進むと埋没していく資格の一つではないかという記事もありましたが、我々公認会計士には「信頼」という武器があり、その武器が公認会計士の魅力でもあります。ぜひ、若い優秀な人材に当業界に入ってきてもらい、将来さらに公認会計士が社会の期待に応えていけるよう、公認会計士稲門会でも尽力していきたいと思っています。

若い優秀な人材確保に向けた活動の一環として、企業内会計士部会では、公認会計士を目指したい学生向けの相談窓口を開設し、キャリア相談などを行っていきたく考えています。すでにFacebookを開設しておりますので、ぜひご参照ください。

企業内会計士部会 Facebook ページ：<https://www.facebook.com/groups/681180423039929>

「近況そして公認会計士の将来性等」



伊藤 道夫

(1971年 商学研究科 修士課程修了)

私は、2009年に新日本監査法人を退職したのですが、ありがたいことに、ずっと東証1部の上場会社の社外監査役をやっております。そのうち1社では、社外でしたが、常勤監査役もやりました。常勤ともなれば、ほぼ毎日出社しましたので、監査法人に勤務している時と殆ど変わらない生活をしていました。こんなことを言っただけですが、これが、私にとって何よりの健康法になりました。会社への通勤、会社から送られてくる取締役会等の資料を読む。このことは、私の身体と頭へ刺激を与えるのにとっても役にたったと思います。

現在は、東証プライム市場に上場している2社の社外監査役をやっているのと、準大手監査法人の独立第三者委員をしております。皆さんご存じのように、上場会社に対してコーポレートガバナンスコードというものがありますが、監査法人（現在は、全部の監査法人ではない）に対してもガバナンスコードというものがあり、監査法人の経営、品質管理の在り方をチェックする社外取締役のような役目をする人を置くことが要求されています。監査をやってきた会計士は、クライアントを批判することには慣れていますが、これらの仕事には向いています。また、プライム市場にいった1社は、コーポレートガバナンスコードを満たすため、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行することを決めました。私は、監査役会設置会社と監査等委員会設置会社の違いがよく分からないので、今勉強していますが、その運営方法が、未だによく分かりません。

私は、大学3年の時に、会計士になろうと思ったので日下部先生のゼミに入りました。先生は、当時、30才代の若さでしたが、会計監査詳説という本をお出しになり、会計監査の分野では、トップの先生

で、会計監査詳説は、会計士2次試験の受験生が誰でも読まなければならない名著でした。残念ながら46歳の若さで白血病で亡くなってしまいました。

日下部ゼミ出身者は、人数は多くないですが、その中には、明治学院大学学長、公認会計士・監査審査会常勤委員を務められた脇田良一先生、専修大学、早稲田大学教授であった鳥羽至英先生、また、先生がお亡くなりになってしまったために学者の道を諦め、現在、BDO三優監査法人の創業者で会長になられている杉田 純氏、あずさ監査法人の理事長になられた佐藤正典氏、そして異色の存在である、自民党所属、東北大震災の復興大臣を務められた吉野正芳衆議院議員等がおられます。

私は、歳ですから、これから公認会計士として活躍しようという気はありませんが、公認会計士という職業には大いなる未来があると思います。保証業務一つとっても、いろいろな分野で監査報告書が要求されるようになっていきます。また、サステナビリティに関して気候変動リスクのような非財務情報までも会計士の保証の範囲に入ってくるようです。それから、監査だけでなく、多くの会計士がコンサルティングの分野で活躍しています。大監査法人では、そのグループに2千人以上の人をかかえたコンサルティングの会社を持っています。また、税務の分野でも、税理士法人を作って活躍しています。さらに、最近多いのは、民間会社のCFO等になって活躍している会計士も多数います。公認会計士になると、仕事の範囲が大きく広がり、将来性たっぷりです。

さて公認会計士稲門会ですが、稲門会の大きな業績は、何と言っても、早稲田大学へのアジアからの留学生に対する奨学金支給を長年に亘り行ってきたことです。早稲田大学もこの奨学金事業については大いに評価してくれています。そして、この奨学金事業の中心になって推進してくれたのが、日下部ゼミの1年後輩で、東京会会長を務められた小西彦衛さんです。小西さんは、学生時代から大変まじめな方で、自分が引き受けた仕事はどんなに忙しくてもたんと笑顔でこなしていました。ですから、東京会会長になっても、奨学金事業は、降りることなく続けられていました。残念ながら、その小西さんは、昨年お亡くなりになってしまいました。小西さんの思いに応えるためにも、公認会計士稲門会は、この事業をこれからもずっと続けていってほしいと思います。

「日本公認会計協会での活動について」



小林 尚明
(1992年 商学部卒業)

令和3年度より、公認会計士稲門会の副会長（総会担当）を拝命いたしました小林尚明と申します。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

現在、私はPwCあらた有限責任監査法人に所属しており、主に上場会社等の監査を担当しています。一方で、2019年より日本公認会計士協会の常務理事として会務にあたらせていただいております。

早稲田との関わり

1985年に早稲田大学本庄高等学院第4期生として入学しました。当時は男子校でした。厳しい大学受験がなかったため、高校3年生後半になって「このままでいいのか」と気が付き、難関資格である公認会計士を目指そうと思い、早稲田大学商学部へ進学しました。

幸いにも大学4年時に当時の二次試験に合格することができ、中央新光監査法人に大学卒業と同時に入所し、その後、2006年にあらた監査法人設立とともに入所しました。

あらた監査法人に入所して間もなく、ファイナンス研究科（当時・日本橋キャンパス）で講座（4名によるオムニバス）を持たせていただくチャンスをいただき、さらにその後、会計大学院でも講座（こちらも4名によるオムニバス）を持たせていただくことになりました。ファイナンス研究科は2016年にビジネススクールと統合され、私の講座は閉鎖されましたが、会計大学院の方は、「金融機関の会計」という講座名で現在も続けさせていただいております。

2017年度には、この講座で「早稲田大学ティーチングアワード」という賞をいただき、本当にうれしかったのを覚えています。

会計大学院は商学部11号館の場所にあり、建物は当時と変わってしまったものの、卒業から20年近く

経ってまさかこの場所で自分が教鞭をとることになるうとは夢にも思いませんでした。

協会会務のきっかけ

監査法人に入所後しばらくしてから、監査業務の軸足を金融機関の監査（主として銀行）に移しました。その流れで、2006年から業種別委員会銀行業専門委員会の専門委員として会務に携わらせていただいたのが始まりです。その後、2013年から業種別委員会委員長を2期6年間経験し、2019年に初めて役員選挙に出ました。

当選後は、業種別会計・監査担当の常務理事を拝命しました。

業種別担当はいわゆる「別記事業」の会社の監査に関連する実務指針を発出するのが主な役割です。カバーする業種は金融からインフラに至るまで多岐にわたり、業種ごとに必要とされる知見がまったく異なるために、業種別に「専門委員会」を設置することで、委員会全体が運営されています。

業種別委員長に就任してから担当常務理事になった現在まで、とにかく勉強の毎日で、振り返ってみると苦勞の連続でした。

特に常務理事に就任してからのこの3年間は、実務指針の作成だけではなく、規制当局や業界団体とのコミュニケーション、新しい規制についてのインプットなど、自分自身の経験値の上がり幅が今までとは比較にならないほど大きく、本当に貴重な経験をさせていただいていると強く感じています。

協会役員として稲門会に期待すること

現在の協会執行部では、東京区当選者37名中、稲門出身者は私を含めてわずか4名です。次期執行部においては、選挙公報記載の情報から判断する限り、私を含めて6名となりました。協会役員の中での多数勢力は永遠のよきライバルである三田会の方々ですが、公認会計業界での稲門会のプレゼンスを高めるためにも、協会会務にもっと稲門出身の方々が参加してもらえたらと思います。役員でなくとも、各種委員会の委員など、協会会務に携わるきっかけはたくさんあると思いますので、稲門会の皆様、ぜひとも協会会務へ積極的に関わってみてください。

私自身、ここまでの人生を振り返ると、公認会計士という職業につけて本当によかったと思いますし、早稲田大学出身で本当によかったと思います。

これからも稲門会での絆を益々深めて、自分自身の人生をもっともっと豊かにしていきたいと思っています。

「地元への貢献」



仲宗根 あゆみ

(1999年 政治経済学部経済学科卒業)

会報をご覧のみなさま、沖縄県出身・現在住の仲宗根と申します。この度は、僭越ながら、稲門会の中でも公認会計士会の会報への寄稿をさせていただける機会に恵まれましたので、この場をお借りして、私のこれまでの活動や現在の活動をご紹介します。紹介させていただきたいと思います。

私は、生まれてから高校卒業までを沖縄で過ごし、早稲田大学への進学を機に上京しました。自身で事業をしていた両親に育てられ、子供の頃は漠然と、両親のような経営者の役に立てる仕事がしたい！と「税理士」に憧れていた記憶がございます（当時は「公認会計士」という仕事を知りませんでした）。しかし、資格の取得には無関心な大学生時代を過ごし、両親のような苦労はしたくないという思いから、就職は「サラリーマン」の道へ。一部上場企業のメーカー等で営業職や販売促進の仕事を行ってまいりました。5年程の社会人経験をした頃、私自身にキャリアを積み上げていけるような仕事をしたい！ゆくゆくは働き方・働く場所を選びながら、私なりにできる社会貢献にもつながる仕事がしたい！と思うようになり公認会計士を目指すこととなりました。

公認会計士試験に合格してからは、PwC あらた監査法人で金融機関の監査業務に従事。次第に、専門知識を社会貢献にもつなげるような働き方がしたい！という思いが強くなり、「地元への貢献」を意識しはじめようになりました。監査法人を退職後は、2つの地方都市で税務業務と監査業務の両方の知識の習得・経験に励みました。そして、選んだ働き方は、2年程前に地元沖縄で「ひとり

事務所」としての会計事務所の開業でした。新型コロナの少し前でした。

開業時は、自分の組織の運営にエネルギーを割くよりは、地元企業の会計実務面に注ぐエネルギーを最大化したいという思いと、先の見えないコロナ不安もあり、現在に至るまでひとりで楽しく奮闘しております。

現在、沖縄の企業の顧問税理士としての仕事をメインに、地元の公認会計士と連携しての会社法監査や包括外部監査、沖縄から上場を目指す企業の取締役等の仕事に日々奮闘しております。なんと！単発ではありますが、開業初年度から「地元への貢献」とも言える県知事宛にご請求させていただく仕事もいただきました！今後も、地元企業の成長や沖縄県・地域にとってプラスにつながる仕事にどんどんチャレンジしてまいりたいと思っております。また、開業3年目を迎える今年は、「私らしさ」も見つめ直しつつ、自分の活動領域についても見つめ直しながら前進していきたいと思っています。

このように、これまで私の歩いてきた道を振り返ってみると、遠回りしているな—と思うことも多いのですが、すべての経験が今の私につながっていて、今の私の判断基準・感性を創っているのだなと実感することも増えてきました。経営者である両親に育てられ、早稲田大学では全国から集まった素晴らしい方々と出会い、事業会社で会社の看板を背負う営業職として社会人デビュー。会計の世界に入り、悩みながら、進みながらたどり着いた地元での会計事務所の開業。今後の展開も、これまでの私の経験の延長線上に自然に描かれてゆくのだと確信しております。

公認会計士稲門会のみなさまとも、地方の企業の成長や夢の実現に貢献するための情報交換や連携等していけたら…と願っております。また、同じ早稲田大学での数年間を過ごした仲間として、同じ職業を選んだ仲間として、公私ともに、良い刺激を与えあえる仲間となっていければと願っております。

最後までご覧いただきましてありがとうございます。ありがとうございました。

「『公認会計士×経営心理士』が持つ可能性」



藤田 耕司

(経営心理士、公認会計士、税理士)

(2002年商学部卒業)

1. 数字の本質は心の動き

私は人間心理に基づいて経営改善をする「経営心理士」の資格の認定講座を開催しています。この経営心理士のコンセプトは「数字の本質は心の動きである」ということです。

決算書の数字の背景には人の行動があります。例えば、売上高の背景には「お客様が商品を買う」という行動があり、そのための「営業」「マーケティング」という行動があります。そして、その行動を司るのが心です。「商品が欲しい」と心が動くと「購入」という行動をとり、それが「売上高」として計上されます。つまり、決算書とは心の動きの集積なのです。

そのため、数字の専門家は数字の本質として心の性質を語る必要があると思っています。

2. 経営改善で大きな効果を発揮

私は会計事務所を経営しながら、経営コンサルティングをやっていますが、心の性質に基づいた経営指導をすると成果が出るようになり、大きく成長する会社も複数出てきました。そして、この手法を学びたいという方からのご依頼を受け、経営心理士の資格を創設しました。

その結果、「売上が伸びた」「従業員の動きが積極的になった」「会社の規模が4倍になった」など、多くの受講生が成果を出すようになり、それが口コミで広がって受講生はのべ5,000名を超え、海外の受講生も増えてきました。

3. 金融庁、日本銀行、上場企業でも導入

その成果が認められ、経営心理士講座の内容は金融庁や日本銀行、上場企業、東京税理士会、公認

会計士協会京滋会、大手監査法人でも研修として導入していただいています。

また、企業の経営支援をしたいという会計士、税理士の方が、経営心理士として上場企業はじめ様々な企業の経営顧問や社外役員に就任するケースが増えていきます。

4. 経営者の悩みは人の心が掴めないこと

私は2004年～2011年まで監査法人トーマツで勤務し、土日は経営者交流会を主催し、経営者の相談に乗っていました。そこで気付いたのが経営者の悩みは似ているということです。

その主な悩みは売上が伸びないこと、そして従業員が思うように動かないことです。これはいずれも「人」が動かないという悩みです。

前者はお客様という「人」、後者は従業員という「人」が動かないという悩みです。そして人を動かしているのは心です。つまり、経営の悩みの多くは「人の心が動かせない」という悩みであり、そのためにも心の勉強をしていいか分からないという経営者が多くいました。

5. 経営に活かせる心理を学ぶ場を作る

そこで経営者が経営に活かせる心理の勉強ができる場を作ろうと考え、これまでの心の性質に基づいたコンサルティング経験を体系化し、経営心理士講座を作りました。

試しにセミナーを開催すると参加者から高い評価をいただき、開催する度に参加者が増えていきました。また、静岡産業大学から「経営心理学」の授業を担当してほしいと依頼があり、大学の非常勤講師も始めました。

経営に活かせる心理を学ぶ場のニーズは私の想像以上に大きなものでした。

6. 経営参謀や社外役員のニーズが高まる時代

今後、士業の仕事は自動化が進みます。一方で、心と数字の両面から経営指導ができる経営参謀や社外役員のニーズは高まっており、コンサルティングに移行する士業が増えていきます。

私は経営心理士講座を通じてそういった士業の方を支援しています。そういう意味でも会計士はまだまだ大きな可能性を秘めた職業です。今後の会計士の更なる活躍を支援する場として、稲門会の活動に期待したいと思います。

「システム工学×公認会計士＝
DX推進のためのITのベンチャー」藤森 恵子
(理工学部卒業)

私は今、ITベンチャー『ASIMOV ROBOTICS(アシモフ ロボティクス) 株式会社』(<https://asimov-robo.com/>)でCEOを務めています。

ASIMOVは、RPA[※]を活用した業務効率化コンサルティングからスタートし、現在は、AI-OCR、自社開発のWEBアプリ、BI(ビジネス インテリジェンス)など、様々なITツールを、全体最適を考慮でご提案する手法が評価され、ビジネスを拡大中です。

※(RPAは生産性向上のための自動化ツールです)

なぜ、ITベンチャーなのか。それは、DX推進の成功に、公認会計士業務の要素の一つが大きく貢献すると気が付いたためです。

大学では、人とロボットが共に生活するSFの世界観への憧れから、システム工学を学び、卒業研究では「ニューラルネットワーク(AI)を用いたロボットアームの制御」をテーマとしました。

しかし、卒業後はロボット開発ではなく、戦略系経営コンサルティング会社へ入社しました。

実は、理工学部に入學して、女子校の中では気が付かなかった自分の特殊技能『おしゃべり力』に気がつき、この能力を活せる道をと考えたのです。その選択には、当時、第一線で活躍されていた早稲田大学理工学部の大先輩である「大前研一氏」の影響もありました。

ところが、当時は男社会。女性コンサルタントはまだ珍しかった為、大きなハンディキャップになると、直感しました。そこで、どうしても「名刺に書ける肩書が必要」と考え、また、経営コンサルタントにとって会計という専門性を持つことは強い武器になるということから「公認会計士」という資格にたどり着きました。

そして、私の会計士人生は、監査法人トーマツにてスタートしました。

監査の仕事は想像以上に面白いものでした。会計士というだけで、様々な業種、ポジションの方が話を聞かせてくれ、重要な帳票も全て見せてくれる。これってすごいことです。この監査を通し、多種多様な会社の業務フローが、私の脳に書き込まれていきました。ここで、『おしゃべり力』は、『ヒアリング力』として花開きました。特に、内部統制監査では、限られた時間で、整理ができていない業務フローを、絡まった糸を解きほぐすように一つ一つヒアリングし、糸の切れた部分、つまり修正すべきフローを見つけ出す事を可能にしました。

やがて、私は『おしゃべり力』を『伝える力』のために活かしたいと考え、共同経営で、内部統制評価関連のコンサルティング会社を立ち上げました。

転機は、共同経営者が税理士法人をM&Aしたことで訪れました。初めて中小企業ビジネスに携わり、想像以上にデジタル化が進んでいないという衝撃が、私を原点であるテクノロジーの世界へと引き戻したのです。最初は、会計システムなどバックオフィスへSaaSを導入するといった、会計の知識を活かした業務効率化支援でしたが、やがてロボット=RPAというテクノロジーに出会うことになります。

最初は、純粹にロボットと一緒に働きたいという想いでしたが、ビジネス化を進めていくうちに、「公認会計士の業務フローの知識はIT業界ではレア」ということに気がついたのです。そして、「システム工学のバックグラウンドを持つ公認会計士はレア」であるということも。これは、大きな差別化要因になるはず。

今、「喋る力(ヒアリング力)」と「会計士スキル」で業務ヒアリングと業務整理を、「喋る力(伝える力)」と「システム工学」でDXの提案を行っています。

お陰様で、昨年よりデジタル庁において有識者委員を務めさせていただいたり、人事院からデジタル人材の登用について意見を求められたり、ちょっと変わった会計士として、お声掛けいただけるようになりました。

これは、会計士の『JX(ジョブ・トランスフォーメーション=変革)』じゃないかなと、密かに思っています。

余談ですが、ASIMOVのビジネスモデルは、大前研一氏が学長を務める社会人大学院の卒業研究がベースになっており、大前研一特別賞と最優秀賞を大学院史上初W受賞しています。なんとも不思議なご縁です。

「逆境を乗り越えた先に道は見えてくる」



山田 雄一郎
(2006年 商学部卒業)

5月末に上場を迎える株式会社トリプルアイズ代表取締役の山田です。当社は「AI(人工知能)の社会実装」を真の意味で実現してゆく会社です。ここでは、私が会計士を目指してから、今に至るまでを振り返りたいと思います。

●ビジネス界の正義を追求?公認会計士を目指す

私は、サッカー少年でした。高校で通用せず挫折して、現役の大学受験は失敗し、浪人して早稲田に入りました。クラスメイトを通じて、公認会計士の存在を知りました。公認会計士にはビジネス界の正義を追求するようなイメージがあり、父方の祖父が小さな町の議員、母方の祖父が小さな会社の経営者であったことから、何か漠然と惹かれました。試験のほうは、直前に彼女にフラれたりして大変でしたが、愚直に努力するという経験は大きな財産になっています。

●社会に出て、また挫折の日々

EYの当時国際部に入所し、私が2年目の時に当時の中央青山監査法人が倒産し、移行してきたグローバル企業の担当となりました。監査をイチから自分たちの頭で考えて創る、というのは大変でしたが貴重な経験でした。

監査にも慣れ、刺激を求めて、新興国へよく一人旅をしました。国外の出会いから、NGO 立上げのプロボノ活動、EY内でのアドバイザー部門への異動につながっていきました。自分が一歩動いてみると、実力の無さに嘆くばかりでしたが、今となっては、その挫折も良い経験です。夜通し作った資料が、皆の前で、ばさっと投げ返され宙に浮かんだことなど悔しくも良い思い出です笑。徐々に、会計士協会の委員や公益団体の経営改革を役員としてやらせて頂いたり、個人としての活動も増えました。

●トリプルアイズとの出会い

EYの中で、新規事業案や、制度改革案件に携わる中で、この事業をより良くする、より良い改革を

するために、そのアイデアだけでなく、それを具体的に実現していくテクノロジーの力が必要だと感じていました。偶然家族旅行で出会ったのがトリプルアイズ前創業社長の福原智氏でした。『テクノロジー・ファースト』という著作もあるとても情熱的な方でした。チャレンジを続けて成長を続ける会社の風土にも惚れて、飛び込みました。

●会社の逆境からの団結

入ってみると、エンジニア魂を胸に秘めた素晴らしいメンバーがいて、グングンと成長していきました。私自身のこれまでの挫折の経験も一つ一つの場面で生きてきた気がします。そんな中で、創業社長が急逝しました。言葉で表すことのできない喪失感と、同時に激震が走りました。奥様から土曜の朝に連絡を受けてから、その数時間後の代表就任でした。そこから、社員、取引先、株主、金融関係などへのご説明の日々がはじまり、これまでの激動は割愛いたしますが、会社の皆が一致団結してくれたおかげで成長を続けることができました。AI、DX と叫ばれて久しいですが、社会は圧倒的なスピードで変化していきます。22年4月に21名の新入社員が入社してくれましたが、彼ら自身が未来です。先端技術を追いかけ、それを社会に実装するべく、まい進し続けたいと思います。

●私が大事に思うこと

改めて、公認会計士稲門会の皆様に僭越ながらメッセージをお送りします。会計士という職を通じて、社会、企業、事業を俯瞰的に見ることができるよう力がついたと感じます。それは一企業にいてはなかなか身に着けられない経験なのかなと思います。一方、事業を推進すること、経営をすることは、泥臭いことや、人間関係、いや、ヒトとヒトのぶつかり合いから成り立っています。それを乗り越えるためには、挫折とチャレンジを繰り返すことが大事だと改めて思います。

●最後に、3人の校友を思い出して

これを書いている間に、3人の大学の大事な友人を思い出しました。一人は一緒に高校から浪人して勉強し早稲田に入った友人。大手を出てベンチャーを起業した彼の背中を見てきたことが今につながっています。また、会計士試験を一緒に勉強したクラスメイト。彼もベンチャーで最近上場し活躍しています。そしてもう一人のクラスメイトは、「俺、ロンドンで絵を描く」と就職せず旅立ってしまい、絵を描きながらロンドンで家庭を持ちました。その彼から新興国への一人旅の刺激を受けました。そして、一緒によく行っていたのが、ラーメン屋メルシー(笑)。久しぶりに行きたいです。逆境の日々においても、家族や友人に支えられて、今の私があるなと思います。

「将来の夢」



キム ハヨン
(教育学部在学3年)

早稲田大学教育学部のキムハヨンと申します。教育学部ですが教育だけではなくマーケティング、SNS産業、ビューティー産業、エンターテインメント産業、メディアなどにも興味を持っています。趣味としては音楽、美術、映像(映画、ドラマなど)、水泳などがあります。多様な分野に興味を持っています。様々な分野を勉強して韓国に戻って一つの分野にとどまらず多様な産業を有する多国籍企業をやるのが私の将来の夢です。

まず、成績も良くない私に奨学金という希望を与えてくださってありがとうございます。奨学金の連絡が来た時、個人的に人生を生きることがすごく苦しかった時期でありました。

以前はやりたいことも、やっていたことも多かったのに、どの道に歩けばいいのか分からなくなり目標を失っていた時期でした。その時に奨学金を頂くことになり、希望を見ました。まだこの世の中が私を見捨ててないんだと考えることになり、自分は本当に何がしたかったのかに対して深く考える機会になりました。

よく考えてみた結果、私が今まで一番興味を持っていた分野はビューティーとマーケティングであったことを気づきました。そこで自分が卒業後一番働きたいビューティーブランドはL'Orealであることを気づきました。L'Orealに入るためではなかったですが、興味を持っている分野では一番大きいコンペティションであるL'Oreal Brandstorm2022というコンペティションに参加することを決めました。奨学金の一部をBrandstorm2022への参加に使いました。今はその結果を待っています。残りの奨学金は学費と自分の英語能力を向上させるために使う予定です。今回のコンペティションが完全英語の大会だっ

たので自分の英語能力を向上させる必要性を感じました。これからも自分が興味ある分野のコンペティションに出たり、勉強したりするつもりです。

正直に申し上げますと、大学ではあまり勉強をしていなかったです。

1年生までは大学も学習内容もすごく楽しかったし、やる気が溢れていましたが、コロナ時代になってから情緒的な問題が生じ、家族の問題もあり、オンライン授業にまったく慣れなかったです。実はまだ完全に慣れてなくて、早稲田ムードルに入ることが怖くて課題は出したのに授業の出席はできず、単位をとれなかった授業が多くあります。

これからはほとんどが対面授業であるし、以前と比べたらメンタルヘルス面でもすごくよくなったので2022年度は頑張って学習しようとしております。

学部活動以外には映画製作サークルで活動しております。シネマプロダクションという早稲田公認サークルの副幹事長になりました。4月から新入生歓迎会を頑張るつもりです。ひぐらしと浪人街という映画サークルにも入っているので5月からは映画を一編撮ろうと思っています。映画よりはCM動画になるとは思いますが、自分が興味を持っている分野のものを直接作ることを2022年の目標としたい気持ちです。

コンペティションに関しては現在応募が完了している状況で、4月中にセミファイナルへ進めるかどうかの結果が出ます。もしセミファイナルに進めることになったら6月までの長期戦になります。セミファイナルまで行くことになったら次はライブで発表をしなければならないのでライブ発表の準備をする予定です。英語勉強の場合、学校で実施されるTOEFL試験を受ける予定です。TOEFL試験を受けてみて自分の英語能力がどのレベルかを確認してみたいです。そして機会があれば交換留学でアメリカに一年間行きたいと思います。直接アメリカで英語能力を上げたいし、自分が経験したことのない環境で生活しながら自分自身の視野を広げたいです。

この四つの分野(学費、CM制作、コンペティション、TOEFL)に今回いただいた奨学金を使う予定です。私にまた人生においてやりたいことを始める勇気をくださり誠にありがとうございます。これからも辛いことがあったり、諦めたい気持ちが生じたときには、この奨学金を得た機会を思い出しながら頑張っていきます。ありがとうございます。

「早稲田から、夢へ」



任毅

(先進理工学研究科修士2年)

早稲田大学先進理工学研究科物理学及応用物理学専攻の修士課程の二年生である任毅と申します。この度、公認会計士稲門会の奨学生として採用していただき、経済的圧力と将来に対する緊張感から抜け出して、勉強と研究に専念できるようになり、心よりお礼を申し上げます。

私は高校生の時代から、日本のアニメや音楽などの大衆文化に惹かれています。大学二年の時から日本語を学び始めて、将来日本へ留学することを志しました。早稲田大学は中国ではとても有名な大学であり、また自分の志望に関係する日本をリードしている研究室があるため、早稲田大学を志望するように至りました。

将来、天文学者になりたいと考え、私は天文学を研究することに注力しています。現在は、チリの標高5000メートルのアタカマ砂漠に建設された大型電波干渉計のアルマ望遠鏡を用いながら、約130億年前に存在していた銀河 SXDF-NB1006-2から出した遠赤外の酸素二階電離輝線 ([O III] 88 μ m) と炭素一階電離輝線 ([C II] 158 μ m) の観測データを分析しています。

かつて、ハワイのマウナケア山頂に設置されたすばる望遠鏡により、この銀河からの水素原子のライマン α 輝線が捉えられて、2012年に人類が発見した最遠方の銀河となりました^[1]。また、2016年に、アルマ望遠鏡により、この銀河から [O III] 88 μ m 輝線が検出されて、史上の再遠方の酸素が検出された銀河となりました^[2]。当時、この銀河からの [C II] 158 μ m 輝線が検出されませんでした^[3]が、2020年に、前より分解能が低い観測データで [C II] 158 μ m 輝線の検出が報告されました^[3]。私は、これまでの研究より、もっと高い分解能を持つ観測データを用いて、

SXDF-NB1006-2の酸素放射の細かい構造を見てみました。その結果としては、SXDF-NB1006-2の中の [O III] 88 μ m の放射は粒々な構造であることがわかりました。また、アルマの新しい観測データを用いて SXDF-NB1006-2の中の [C II] 158 μ m 輝線も調べました。私の分析結果は他者の論文^[3]の結果と一致となりました。以上のような経緯から、私は分析結果をまとめあげて、天文学に関連する学術雑誌に投稿することを試みる予定があります。

そのほか、[O III] 52 μ m と [O III] 88 μ m の光度比は銀河の星間物質の物理性質の調査に役立ちます^{[4][5]}。去年、私はアメリカの研究グループのモデル^{[4][5]}に基づいて、SXDF-NB1006-2銀河からの [O III] 52 μ m 輝線を観測する申請書をアルマ望遠鏡に提出して採用されました。しかし、天気などの物理的制限のため、まだ観測できるようにはなっていません。そのため、先月、自分自身の研究結果に基づいて、去年の申請書を更新して再提出しました。

私は修士課程を修了したら、早稲田大学の同じ研究室の博士後期課程に進学したいと考えています。博士課程に進学したら、[O III] 52 μ m 輝線の研究のほか、去年打ち上げられた NASA の JWST 宇宙望遠鏡が観測する予定がある SXDF-NB1006-2 の可視光領域の [O III] 輝線を研究したいと思います。[O III] 88 μ m、[O III] 52 μ m、また可視光領域の [O III] 輝線の観測データが揃えば、銀河の星間物質の金属量、電子密度や電子温度などの様々な物理性質を解明することが期待できます。

天文学は基礎科学であり、国籍に関わらず、国際共同研究が盛んに行われています。例えば、次世代の大型電波干渉計プロジェクト VLBI では、東アジア VLBI ネットワークがあり、日本、中国、韓国、タイなどの電波望遠鏡を連結して観測研究を行う予定です。私はこのような国際研究活動を機に、日本と中国のみならず、国際的交流のかけ橋になりたいと思います。

最後に、奨学生として採用していただき、公認会計士稲門会の皆様に、再びお礼を申し上げます。

参考文献:

- [1]. Shibuya et al. 2012, ApJ, 752, 114
- [2]. Inoue et al. 2016, Science, 352, 1559
- [3]. Carniani et al. 2020, MNRAS, 499, 5136
- [4]. Yang & Lidz, 2020, MNRAS, 499, 3417
- [5]. Yang et al. 2021, MNRAS, 504, 723

「個人的な経験と 日本で勉強すべき理由」



ルモコイ ファーレン スティービー
(商学研究科博士3年)

1. 日本での理由研究

日本は現在、世界で3番目に経済部門が高く(BBC 2021)アジア地域で最も優れた先進国の1つであることは間違いありません。これらの要素に基づいて私は日本での研究を継続し、日本のビジネスセクター、特に製造業とサービス業を研究することに興味と意欲を持っています。

2. 早稲田大学での理由研究

先に述べたように、私は日本の製造業やその他の分野のビジネスセクターを研究することに興味があります。そのため、私は日本一の私立大学として早稲田大学大学院商学研究科の博士課程で勉強を続けました。早稲田大学は、日本のビジネス分野を勉強するという私のニーズをすべて満たすことができると思います。この事実に基づいて、私の研究プロジェクトは総合的品質管理(TQM)特に継続的改善のシステムに焦点を当てており、デジタルメディアマーケティングにもわずかに焦点を当てています。

3. 最新の研究

私たちが知っている事実に基づいて継続的改善(継続的改善)のシステムは、カイゼンと呼ばれる日本のビジネス文化から形成された概念です。継続的な開発システムは重要な部分になり、すべての企業が国内およびグローバルにビジネスを継続できるようにするために必須です。継続的な開発システムを継続的に実行しなければ企業は消費者を失い、提供される製品/サービスの購入にもはや興味なくなることは確実です。

4. 将来への展望と希望、そして卒業後の方向性

私の観察によれば、日本人は自分たちの仕事に高い労働倫理と規律を持っています。これは、私が職場に戻ったときに彼らの仕事のパターンに従うように私を動機づけます。確かに、多くの留学生が日本で勉強を続け、世界でも有数の日本企業文化を直接体験できることを願っています。これを達成するために、日本政府または民間部門は留学生に奨学金を提供して、日本での研究を継続できるようにし日本の大学を世界中に知らせることができます。

早稲田大学大学院商学研究科博士課程修了後。私は母国に戻り、日本を特にビジネス分野で誰もが勉強を続けることができる非常に快適で最高の国として宣伝します。

そして間違いなく、日本の教育制度は誰もが継続的に働き続けることができるように動機付けるのに非常に優れています。私の国は私の国の教育制度がより良くなり、特に教育の分野で働き続けることができるようにすべての人の興味を引くことができるよう、日本政府と民間部門のやり方を模倣する必要があります。

登録住所及び登録メールアドレス変更の際のご連絡のお願い

会報を登録住所に送付し、メール・ニュースを登録メールアドレスに配信しています。転居や事務所移転等に伴う登録住所やメールアドレスの変更がある際には、公認会計士稲門会の事務局宛のご連絡 (info@cpa-tomonkai.jp) もしくはホームページの「お問い合わせ」からご連絡頂くようお願いいたします。ホームページのお問い合わせは、HOME ⇒ お問い合わせ、からもアクセスできます。

「公認会計士への想い」



飯村 知倫
(2021年 商学部卒業)
☆2021年度合格☆

この度は公認会計士稲門会の会報へ寄稿する機会を頂き、ありがとうございます。誠に僭越ながら簡単な自己紹介並びに公認会計士に対する想いを記載いたします。

2017年上京し、中野にある早稲田大学国際学生寮 WISH で生活しながら、早稲田祭の運営活動に取り組んでおりました。

大学3年の秋、周囲が就職活動を始める中、私は公認会計士試験に挑戦することを決め、就職活動は最低限に留め勉強を始めました。

下記では、合格までの道と今後の抱負について述べさせていただきます。

1. 合格までの道

私が公認会計士を目指した理由は、高度な専門性を以ってクライアントサービスを提供することができる点に魅力を感じたためです。

私は高校生の頃、「ビジネスに必要なのは英語、IT、会計だ」と教わりました。そのため、会計に対しての重要性は早稲田大学入学以前から感じており、大学では積極的に会計の授業を履修しました。当時の私にとって、「公認会計士」という試験はとても難関な試験という印象がありました。ダブルスクールで勉強をしていた友人が、数カ月で撤退していくところを何度か見ていたからです。そのため、簿記を勉強した先にある資格と認識していましたが、自分には無理だときめつけてしまっていました。

その後、就職活動を行うにあたり、自身の専門性を高める必要を感じ、会計の勉強を再開しました。特に管理会計分野に面白さを感じつつ、監査を通じて様々なビジネスを視ることができる監査

業務にも興味を持ち、会計士試験にチャレンジすることを決めました。

大学3年の12月頃に予備校に入りました。しかし、勉強に専念できる環境ではなかったため、大学卒業と同時に就職する必要があり、就職活動しながら勉強することとなりました。また、学習開始時期も開講から大幅に遅れてスタートしたため、最初の数ヶ月はWeb講義を倍速で受けて追いつくのに必死でした。

そんな中、私に大きなチャンスがやってきました。学習をはじめて3カ月が過ぎた頃の2020年3月頃、COVID-19が流行し始めました。世の中が大きく変わり、緊急事態宣言が出され、対面での大学生活もオンラインでの授業を中心とした大学生活に切り替わり、就職活動もオンライン面接で受けることとなりました。公認会計士試験にも影響があり、試験が3ヶ月延期されることが決まりました。本来であれば、5月に実施される予定だった短答式試験と就職活動を両立しなければなりませんでしたが、短答式試験が8月に延期されたため、就職活動勉強ともに集中して行うことができ、無事8月の短答式試験に合格することができました。

その年の論文式試験には及びませんでしたが、就職した会社で勉強に対するご理解ご協力をいただいたおかげで、2021年度の論文式試験に無事合格することができました。

コロナ禍で社会が大きく変わりましたが、前向きに捉え柔軟に行動できたことが合格に結びついたことと自負しております。

2. 今後の抱負

私は、「人に寄り添った会計士」を今後の抱負とします。クライアントの方はもちろん、同期やチームメンバーに寄り添い、悩みを汲み取り解決できる会計士を目指します。そのためにも、今は目の前の補習所や監査業務にひたむきに努力し、自己研鑽を積んでいきたいと考えます。また、コロナ禍で難しい場面もあるかと思いますが、人とのつながりを大事にしていきたいと思っております。

改めて、今回は公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会を頂き、誠にありがとうございました。まだまだ未熟者ではございますが、今後とも稲門会の一員として恥じぬよう研鑽してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

「公認会計士を志した経緯、試験合格までの道のりや、今後の展望」



桑村 美咲
(2019年政治経済学部卒業)
☆2021年度合格☆

この度は公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会を頂きありがとうございます。稚拙な文章ではございますが、公認会計士を志した経緯、試験合格までの道のりや、今後の展望について書かせていただきます。

1. 公認会計士を志した経緯

公認会計士の勉強を始めたのは大学3年生の終わりがごろでした。

一般の就職活動が始まる時期で、私もいくつかの企業の説明会に足を運んでおりました。将来のことを真剣に考えるようになり、自分のやりたいこと、自分の強みなどが無いことに気づきました。また、アメリカ留学から帰国してから日が浅かったため、より海外で働きたいという思いが強く、このまま周りに流されて新卒採用の就職活動を行っていても良いのだろうかという思いがありました。

その中で、母や高校の担任教師に勧められたことのある公認会計士という職業に興味を持ち始めました。地方出身であるため地方の事務所があること、海外駐在など海外で働くチャンスがあること、そして、会計・監査という専門性を身に付け自分の強みを持つることなどに魅力を感じ、公認会計士になることを志しました。

2. 合格までの道のり

そして予備校に通い始めますが、ここから合格までの茨の道に進んでいきます。

とりあえず勉強を始めたものの、初めは講義と答練の消化に必死でした。同じ合格目標の人たちに追いついた夏頃、圧倒的に知識量の差があることに気が付き、毎日時間を惜しみ勉強をしました。

5月の短答試験に合格しましたが、目標とする2019

年の論文試験では不合格でした。共に勉強していた友人たちはほとんど合格し、予備校に戻ると一人になっておりました。それでも、論文の勉強期間が3か月しかなく、実力が合格水準に大幅に足りていないことは理解していたため、気持ちを切り替え勉強に戻ることができました。そんな中で、コロナウイルスが流行し、試験が延期されるという事態が起きました。

1回目の論文試験に落ちてから8月に向けて必死で勉強していた私にとってそれは苦しいものでした。それでも、予備校の講師陣やチューターに支えて頂き、2回目の論文試験を受験しますが、不合格でした。予備校の模試等で十分に合格水準にいたために、精神的に大きなダメージを負いました。何を信じてこれから勉強を続けていけばいいのかも分からなくなりました。それでも、合格発表のあった2月から次の論文式試験まで半年間しかないことから、ここでくよくよしてはいけなと自分を奮い立たせ、受験勉強を再開しました。今回は三回目の論文式試験ということでラストチャンスであり、これで合格できなければ公認会計士になることをあきらめようという思いで挑み、三度目の正直で合格することができました。

受験生活を振り返ると、総じて辛いことが多かったのですが、得られたものも多くあります。その一つは共に切磋琢磨し受験生活を過ごした仲間です。仲間ができたことで、いつの間にか受験生活が楽しいと思うようになりました。悩みや不安を共有できる人がいるだけでこんなにも心強いものなのだ実感しました。合格後も、この出会いを大切にしたいと思っております。

また、合格に至るまで支えてくれた、家族や大学時代の友人、講師の方々には感謝してもしきれません。私自身も誰かの支えとなるような存在になりたいと思います。

3. 今後の展望

働き始めて5か月が経ちましたが、分からないことばかりの毎日で自分の無力さを痛感しております。受験時代に思い描いていた英語業務や海外駐在などは、遠い未来のことのようにも感じてしまいます。それでも、先輩会計士の方々の凛々しい姿を見て、憧れていた方々と共に働かせて頂けることに喜びを感じ、このような恵まれた環境で働くことができる幸せを日々、噛み締めております。今後は日々の業務に責任を持ち、真摯に向き合うことで、グローバルに活躍する会計士に近づけるように精進してまいります。

「早稲田の学びを基に」



河野 郁

(2021年商学部卒業)

☆2021年度合格☆

この度は、伝統ある公認会計士稲門会会報に寄稿する機会をいただき、大変光栄に思っています。

私が早稲田大学商学部に入学したときに漠然と描いていた将来は「海外で働きたい」ということでした。英語が好きだったので「英語を自分の強みにして働くことができたらいいな」と思っていたのです。

高校生の頃、多様なバックグラウンドを持つ学生が集まり、勉強だけでなくスポーツや芸術でも世界をリードしている早稲田大学のイメージに憧れていました。活気あふれるキャンパスの「早稲田大学に通いたい」という気持ちでいっぱいだった私は、正直なところ商学部がどのような学問を勉強する学部なのかよくわからずに入学してしまいました。しかし、そんな私にとって早稲田大学商学部で受けた講義は、高校までの授業とは全く異なりとても新鮮で、想像もしなかった私の未来を切り拓いてくれるものでした。

私が特に大きな影響を受けた大学の講義は基礎会計学でした。山内暁教授の講義は、仕訳をきって自分で財務諸表を作成するだけでなく、日本経済新聞の記事を読んで、今学んでいる知識が実社会にどう結びついているのか確認することができました。また、会計の知識やスキルを身に付ければ企業の状況を正確に理解できることがよくわかりました。難しいと感じていた新聞記事の内容を自分でも理解できるようになり、基礎会計学はすぐに好きな講義になりました。また公認会計士という職業も基礎会計学の講義をとおして知ること

ができました。会計は世界共通の言語であり、公認会計士になれば海外で働くチャンスも広がると知り、会計の楽しさにはまっていた私は「公認会計士試験に挑戦しよう」と決意しました。

また、公認会計士試験の勉強以外に、大学生活で特に力を入れたことは清水孝教授のゼミでの活動です。清水ゼミを志望した理由は、プレゼンテーションが多い点と英語を使った活動が多い点が魅力的だったからです。グループでプレゼンテーションを行うことは初めての経験だったため、協力してプレゼンテーションを完成させることは難しい課題でした。うまくいかないこともありましたが、「失敗は、次にどうすべきか考えるチャンスだ」と捉えることができるようになりました。また、実際の企業の事例を調べることで、「知識として理論は理解していても、実務では全く異なることもある」ことを学びました。このようなゼミでの活動をとおして、机に向かってテキストを読み込むだけでは身に付けることのできない様々な経験とスキルを身に付けることができたと感じています。

この2月から監査法人で勤務を始めました。今、私は大学や試験勉強をとおして学んできた知識やスキルを実際に生かすことができる面白さを感じるとともに、より会計に関する理解が深まって来ているというワクワク感や充実感を感じています。その一方で、会計や監査の知識だけでなく、担当する企業を取り巻く業界全体の情報や社会経済全体の情勢についての勉強が不可欠であると痛感しています。諸先輩の指導を受けながら、直面する毎日の業務をとおして、多くのクライアントから信頼される公認会計士になるために努力を続けたいと考えています。

そして、世界を舞台に活躍できる公認会計士を目指して幅広い知識と経験を積み、英語だけでなく自分だけの強みを持つ真のプロフェッショナルの公認会計士に成長できるように励んでまいります。これからも早稲田大学の卒業生として、誇りと自信をもって一歩ずつ成長していきたいと考えています。

最後になりますが、稲門会の皆様には、今後とも御支援、御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

「合格までの道のりと今後の抱負」



外角 丈瑠
(商学部在学中 4年)
☆2021年度合格☆

この度は、公認会計士稲門会会報へ寄稿させていただき機会をいただき、誠にありがとうございます。早稲田大学商学部四年の外角丈瑠と申します。本稿では、私が公認会計士を目指し、合格に至るまでの道のりと、今後の抱負について書かせていただきます。

1. 公認会計士を目指すきっかけ

私が、公認会計士を目指すとしたのは高校三年生の秋頃です。当時、私は受験勉強の真っ只中でした。高校が進学校ではなかったので、周囲の友人たちの中には、大学へ行かずに、専門学校や就職という選択をした人も多くいました。私は彼らと比較して何も決まっていなかった自分の将来に少し焦りを覚えました。大学に進学するつもりの方々に将来の目標について聞いてみても、特に決まった目標があるわけでもなく、「このまま大学に行っても、やりたいことが見つからずに適当に就職することになってしまうのではないか」と不安な気持ちがありました。そうした思いを抱きながら、受験校を絞るために各大学学部について調べていく中で、現在私が在籍している早稲田大学商学部の卒業生の進路の一つとして公認会計士を知ることとなりました。当時、私は公認会計士の存在を知らず、未知なる大人の世界の象徴として現れた公認会計士なるものに興味を持ち、受験勉強の合間にその業務内容等について調べました。そこで監査をはじめとした公認会計士の幅広い活躍の場を知り、「私の人生をかけるならここだ」と思い、公認会計士を目指すことを決めました。

2. 合格に至るまで

大学に入学した私は、すぐに予備校に駆け込み勉強を開始しました。新歓が楽しかったので、当初はサークル活動にも参加しようと考えていましたが、自分がもともと遊びの類の誘惑に弱い人間であり、勉強をせずにサークル活動に耽る未来が容易に想像できたので、退路を断つ意味も兼ねて、サークルには参加しませんでした。

幸いにも大学受験からそこまで期間が空いていなかったため、長時間勉強の習慣が身体に染みついていたので、比較的スムーズに試験勉強を開始することができました。最初は会計について全く無知の状態でしたが、講義を受け続け復習をすることで次第に分かってくるようになり、また、高校生までの勉強とは異なり、会計士試験に出てくる科目は現実に役立つものばかりなので、楽しく勉強することができました。公認会計士試験の範囲は膨大でしたが、勉強を続けていく中で様々な分野の知識を身に付けることができ、日々成長を実感していました。

大学二年生の時に短答式試験を突破していたこともあり余裕をもって論文式試験に臨むことができましたが、短答式試験とは異なり自己採点が難しいので、合格発表日までは友人たちと遊び倒して不安を紛らわせていました。公認会計士試験を通して、友人や家族のありがたみを改めて実感することができたのは大変僥倖でした。

3. 今後の抱負

私は現在、監査法人にて非常勤勤務をさせていただくと同時に、通っていた予備校でチューターとして勤務させていただいております。監査法人での勤務を通して、公認会計士に求められる知識や能力は非常にハードルが高いものであることを実感したので、一日でも早く真のプロフェッショナルになれるよう研鑽を積んでいきたいと強く思いました。私の所属する部門のクライアントが金融機関なこともあり、初めて聞く専門用語が続出していますが、元々金融に興味を持っていたので、自分の知らない知識に出会えるのが楽しく、また、優しい先輩方のサポートのお陰で刺激的で充実した毎日を送れています。二十代のうちに海外で働いてみたいので、今後は監査だけでなく、英会話教室に通って英語の勉強もしていこうと考えています。

「紆余曲折」



田中 健太郎

(2021年 会計研究科修士課程修了)

☆2020年度合格☆

この度は公認会計士稲門会の会報へ寄稿する機会をいただき大変光栄に思っております。会計士試験合格までの経緯と、今後について書かせていただきます。

I 早稲田大学入学

公認会計士という資格を知ったのは、初めて入った大学の春でした。私は日本史が好きでしたが、生計を立てやすいという理由で法学部に入りました。しかし、法学部の授業は私の肌に合わず、簿記を勉強することにしました。しかし、どうにも勉強に身が入りません。私の頭には、歴史学を専攻しなかった後悔があったのです。ちょうどその時、高校の恩師が早稲田に4回落ちていた、早稲田卒の祖父も仮面浪人していたことを知り、私も親の脛をかじってもよいかという甘い気持ちが芽生えてしまいました。こうして大学を辞め、浪人生活を送り、憧れの早稲田大学に入学しました。

II 公認会計士試験挑戦

自分の将来について考えていたところ、とある中国人商社マンと出会いました。私が早稲田で日本史を研究していると話すとは、早稲田よりいかに慶應の方が良いかを私に向かって話し始めたのです。私としては、「余計なお世話だ、俺は早稲田の方が好きなんだ」と内心怒っていましたが、三田会の結束力や数値を用いた巧な話術により、最終的には納得してしまいました。(好きなのは圧倒的に早稲田です) また彼は、「私は電車の移動時間でも英語を勉強している、田中君も英語をやりなさい」と助言してくれました。そこで私は英語の勉強を始めました。ただ、冷静に考えるとこのまま勉強したところで帰国子女には勝ち目はない。そうであるなら専門的な勉強をした方が良いと考えるようになり、公認会計

士を目指すことを決めました。

しかし、当初立てた計画は朝3時に起床して勉強するような無茶なものでした。当然そのような生活が続くはずもなく精神的にも疲弊し、わずか半年程度で受験を諦め、一般就職に切り替えました。この挫折は、自分が凡人であることを再確認する良い経験だったと今では思っております。

III 再挑戦

就職活動を行う中で、己を見直すと公認会計士への思いに気づきました。一方で可能性がないものに賭けるべきではないとの思いがあり再挑戦をためらっていました。そんな折、趣味の自転車が原因で、半月板断裂の大怪我を負いました。医者に行くとき後激しい運動は難しいとの診断を受けました。スポーツが生きがいであった私にとっては衝撃的な診断で相当落ち込みました。しかし、この怪我が、私を公認会計士試験に再挑戦させるきっかけとなりました。人生を面白くするには公認会計士になるしかないと思ったのです。再挑戦決断後、内定を辞退し、会計研究科の入学試験を受け合格をいただきました。この経験が自信となり短答式試験も合格することができました。しかし論文式試験の勉強は思うように進みませんでした。この期間は非常に辛く、「俺の人生はどうなるのだろうか」と日々考えていました。そのような時に covid-19 により試験が延期されました。常々後1カ月時間があれば願っていた私にとっては神風に等しく、合格するしかないと腹をくくりました。誰ともしゃべらず、机に向かう孤独な時間が続きましたが、帰り際大隈講堂を見ると心が洗われました。22時過ぎの誰もいないキャンパスからみる大隈講堂は今でも私が一番好きな景色であり、初心を思い出させてくれる大切な景色です。大学院1年次に合格し、2年次は講義にも参加することができました。合格後就職せず、1年間学ぶ機会を得たことは私にとってかけがえのない財産です。

IV 今後の目標

自営業者の父が会計知識に疎く苦勞している姿を近くで見えました。規模は違えど上場を目指す企業も同じような悩みをもっていると思います。私はそのような企業経営者を支援することができる公認会計士を目指します。

公認会計士稲門会が日本一の会と言われるように微力ながら頑張らせていただきます。皆様ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

「合格までの道」



林 孝之

(2020年 会計研究科修士課程修了)

☆2021年度合格☆

この度は、公認会計士稲門会会報に寄稿の機会を頂きありがとうございます。

恐縮ではありますが、私の公認会計士合格までの道のりと今後の目標について書かせて頂きます。

1 合格までの道のり

大学時代、簿記1級を取得していたため、大学卒業後、税理士法人に就職をしました。

税理士法人での業務はやりがいや楽しさはあったものの、業務を行っていく内に、もっと自身の専門性を高めたいという思いが強くなり、税理士と迷ったものの、公認会計士を志望し、会計研究科への進学を決めました。

2 大学院での勉強・学んだこと

公認会計士の試験は短答論文ともに計算科目が特に重要と言われていたため、大学院で試験勉強をする際には、計算科目に強くなることを意識し勉強を行っていました。大学院での授業は、理論科目はもちろんのこと、計算科目についても実務の観点や、理論的背景から説明を行って頂けたので、単純な暗記というより理解しながら覚えることが出来、丸暗記が苦手な私にとっては苦痛なく、効率的に学習を進めることが出来ました。

また、本試験では日々の答練とは少し違った角度からの問題も出題されることがあるのですが、そのような問題に対しても、各試験科目に対して深い知見や見識を持った先生方の各講義を受講

し、本質から理解することを優先した学習を行っていたため、無事に対応することが出来ました。

会計研究科の授業には、通常の講義以外にもワークショップや、監査法人等による提携講座があります。確かに試験勉強で手一杯ではあったのですが、これら授業も積極的に受講しました。

ワークショップでは、少人数でのディベートを行うことで、思考力や論述の論理構成の能力を高めることが出来、応用力の試される論文式試験に対応する力が養うことが出来ました。

提携講座では、模擬的に監査業務を行いました。その講義を通じて、監査はチームとして、財務諸表の信頼の保証というサービスを提供するものであることを学びました。試験とは直接関係ないものの、チームワークを重視し、自分の役割を全うするという現在の私の監査に対する基本姿勢は、この講義から学んだように思えます。

3 今後の目標

現在、監査法人に勤務し、上場会社の監査、株式上場支援業務等に従事しています。

まだまだ監査業務の経験は浅いですが、将来的には、早く主査業務を経験してみたい、そして監査業務で培った経験を活かし、多くの企業を上場させたいと考えています。

会計研究科の教育方針として「会計 + a」という言葉があります。これは会計等の専門的知識の習得に加え、隣接する専門領域を習得し、活躍のフィールドを広げるという考えです。

したがって、将来は監査業務を軸に、+ aとして上場支援業務を自分の得意分野と出来るように日々励み、公認会計士としての自身の価値を高めていきたいと考えています。

最後になりましたが、今回は稲門会の一員としてこのような機会を頂きましてありがとうございました。早稲田大学会計研究科での2年間がなければ会計士試験合格はなかったと思います。未熟ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

「合格までの道、今後の抱負」



穂刈 歩未
(2021年 商学部卒業)
☆2021年度合格☆

1. はじめに

この度公認会計士稲門会の会報に寄稿する機会をいただき、ありがとうございます。私は早稲田大学商学部を卒業し、現在は大学院会計研究科の2年生である一方で、監査法人にて学生非常勤として勤務しております。本稿においては、僭越ではございますが、私が公認会計士を志したきっかけや会計研究科での学び、今後の目標について書かせていただこうと思います。

2. 公認会計士を志したきっかけ

私が公認会計士を目指したきっかけは、女性としての働きやすさに魅力を感じたからです。以前から、自分のキャリアを大切に働きたいと思う一方で、ライフイベントも大事にしたいという思いが強くなりました。将来について考え、就職活動についても考え始めなければいけないというタイミングで学部先輩から公認会計士について話を伺い、資格を持つことの強みや公認会計士のキャリア設計の柔軟性に魅力を感じました。実際監査法人に入所し、私が所属するチーム内にも育休や産休を経て管理職となっている方が多く在籍しており、合格し働き始めた今でも当時の印象は変わることなく女性会計士の働きやすさを実感しております。この先様々なライフイベントに直面した際に、実際に自分がどのような働き方を選ぶかはわかりませんが、様々な選択肢が用意されているという事実は大変心強いです。

3. 会計研究科での学び

早稲田大学商学部を卒業後、会計研究科に進学し1年次に短答式・論文式試験の合格ができませんでした。基準設定の背景や今後の動向などと合わせて会計論点を学ぶことにより、より深く、体系的に知

識を習得できたのは、会計研究科の授業のお陰です。短答式、論文式を控えていた1年前期においては苦手科目を中心に履修し、基礎から学び直すことで無事克服し、試験に臨むことができました。合格した現在は、国際会計基準や英語による会計の授業などを履修し、修了生としての強みを持てるよう勉学に励んでいます。さらに、会計研究科には監査法人やコンサルティングファームとの提携講座も多く用意されており、模擬監査を体験や監査上の最新のトピックを学ぶ授業なども用意されています。実務の最前線で活躍している実務家の方々とお話しできたことはモチベーションにもなり、会計士の勉強を進めていく中で非常に励みになりました。

学部生時代には苦勞した試験勉強でしたが、心機一転大学院に入学し、基準設定に関わる偉大な先生方から直々に会計について学ぶことができたこと、そして友人たちと切磋琢磨できたことは私にとって何物にも代えがたい経験となりました。

4. 今後の抱負

まだ入所間もなく、目の前の仕事に必死の毎日ですが、将来的にはクライアントに頼りにされるような会計士になりたいと思っています。そのために、まずは専門的知識を身に付けクライアントと円滑なコミュニケーションが取れるよう自己研鑽に励みたいです。具体的には、日本基準は当然ながら、先に述べたように国際会計基準、さらには今後開示の拡大が期待される分野の知識も幅広く身につけることが大切であると考えています。残り1年の大学院においてしっかりとこれらについて学び、卒業後もキャッチアップ続けていくことで、会計知識についての説得力を持ち、頼りがいのあると思ってもらえるような公認会計士になりたいです。

最後に、この度はこのような機会をいただき誠にありがとうございました。試験勉強の過程では苦しいことも多々ありましたが、合格し働き始めた今、この資格を目指し勉強を続けて本当によかったと思っています。何より稲門会への寄稿の機会をいただけたことは、両親や祖父母への孝行にもなったと思います。実務に入り約1か月、まだまだ苦戦することも多くありますが、幸い周りの先輩や同期にも恵まれ、周りの方に助けられながら業務にあたっています。まだまだ未熟な私ではありますが、名実ともに立派な公認会計士になれるよう精進していきたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しく願いいたします。

「公認会計士試験合格への道、 今後の抱負」



宮本 純也
(2019年政治経済学部卒業)
☆2021年度合格☆

この度は公認会計士稲門会への寄稿の機会を頂きありがとうございます。僭越ではございますが、私の合格までの道のり、そして今後の抱負について書かせていただきます。

公認会計士試験合格までの道のり

私は大学4年生の夏ごろから公認会計士試験に向けての勉強を始めました。それまでの大学生活は特に何かに打ち込むというわけではなく、アルバイトやサークルに大学生活の大半の時間を費やすというような生活をしていました。また、大学3年生の終わりごろからからは一般企業への就職に向けて就職活動をしていましたが、漫然としたものであり明確な方向性が見えない状況でした。このままではなんとなく就職先を決め、なんとなく社会人生活を過ごすことになってしまうのではないかという危機感を覚えました。そこで、明確な方向性を決め自分が力を入れて取り組むことが出来るものを見つけることが必要なのではないかと考えました。その際にどのような選択肢があるのかを考慮した結果、経済学科出身である自分のバックグラウンドや、明確な専門性を身につけたいと考えていたという点を踏まえ、公認会計士試験合格を目指すことが自分にとって最適なのではないかと考えました。そこで、大学4年生という比較的遅いタイミングでのスタートではありますが、試験合格に向けて勉強することを決意しました。そして、大学卒業後は受験生活に専念するため大学のある東京を離れ、地元大阪で予備校に通いながら受験勉強を行うことにしました。当初は独りで勉強する生活が続き精神的に苦しい時期もありましたが、やがて予備校で他の受験生との繋

がりも出来るようになり、そういった同じ志を持つ友人に支えてもらいながら何とか受験生活乗り越えることが出来ました。その結果、2020年の8月短答式試験、2021年の論文式試験に合格することが出来ました。短答式、論文式共に2回目の受験での合格となり、3年間程度の勉強期間を経ての合格であったことから、決して順風満帆とは言えない受験生活ではありましたが、それも今となってはいい思い出であり今後の糧となっていくようなものであると思っています。

今後の目標

2022年の2月に監査法人に入社をしました。仕事について分からないことばかりであり、また入社後すぐに繁忙期を迎えることもあり、落ち着かない日々を過ごしておりますが、受験生時代の単調な日々とは一転し、刺激を受けることが多く喜びを感じている面もあります。今は先輩方に手取り足取り教えて頂きながら業務に取り組んでいるような状況ですので、まずは法人内で独り立ちできるようにすべてのことを吸収するつもりで目の前の仕事に全力で取り組むことが必要であると考えています。その過程で、試験勉強で学んだ知識と実務とを結びつけることで一人前の公認会計士になりたいと考えています。

公認会計士としての将来については、どのような選択肢があるのかといったことについてもまだまだ分からない状況ではありますが、公認会計士としての会計や監査の土台に自分らしい色を付けることで、自分で道を切り開いていけるような存在になりたいと考えています。そのためには、基準や法律の知識はもちろんのこと、実務での様々な経験を積むことや新たなビジネスについての知見を深めることが必要であると考えています。技術革新や情報の伝達速度の速い時代であり、日々そういったことに対応するだけでも大変な時代ではあるかと思いますが、公認会計士を志した初心を忘れることなく一人の専門家として一人でも多くの人に頼られ感謝されるような存在になりたいと考えています。

最後になりますが、改めて寄稿の機会をいただきありがとうございます。皆様にご指導を頂きながら一人の専門家として、また、一人の人間として成長していきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

「合格までの道、今後の抱負」



坂口 果菜
(2018年社会科学部卒業)
☆2021年度合格☆

1. はじめに

この度は公認会計士稲門会会報に寄稿する機会をいただき、誠にありがとうございます。僥越ながら、私が公認会計士を目指し合格するに至るまで、今後の展望についてお話しさせていただきます。

2. 大学卒業まで

近年大学在学中から会計士を志す方も多くいらっしゃるようですが、私は早稲田の地で会計士とは無縁の4年間を過ごしました。

オーケストラサークルが生活の中心で、サークル費を稼ぐため始めたバイトと、学生会館を始めとした練習場所、自宅を行き来する日々でした。コロナ前でしたので、制限なく活動に打ち込むことができ、4年生の時には海外で演奏する機会にも恵まれました。もう少し真面目に勉学に励んでおけばよかったなという気持ちもございますが、それは別として、この大学生活はとてかけがえない4年間であったと思います。

3. 社会人になってから

卒業後は、化学メーカーの工場です務として働きました。経理や総務といった一般的な事務業務のほか、現場の仕事を覚えるため作業員に交じって製品運搬などの作業をおこなったり、雑用もこなしました。初めて地元から離れて一人暮らしをしたこともあり、社会人の常識や生活力がある程度身についたと思っています。

ただ、活躍している女性社員が極端に少ないことや、転勤が多いことから、ずっとこの会社で働いていくことは難しいだろうという思いがだんだん強くなっていました。

そんな折、自職場が内部監査を受ける機会があり、私は初めて「監査」という用語を耳にしました。監査について先輩に教わるうちに、その意味や、法定監査は公認会計士の独占業務であることを知りました。

これが私の会計士という職業との出会いであり、「監査という仕事は面白そうだな」と直感的に思った私は、その後、数少ない会計士の知り合いに連絡を取ったり、予備校のパンフレットを取り寄せてみたり、簿記を受けてみたりと会計士になることについて真剣に検討することに致しました。監査法人は基本会社命令の転勤がないというのも、当時の職場と比べて魅力的に映りました。

結果、いよいよ公認会計士を目指すことを決意した私は会社を退職し、地元に戻ってアルバイトをしながらの受験勉強が始まりました。

コロナ禍で試験日程が変更になったこともございましたが、予備校の先生の的確なご指導の下勉強した結果、幸いにも2021年度の短答・論文式両試験に合格することができました。現在は補修所に通うかたわら監査法人で勤務をしております。

4. 今後の展望

現在入社してから数か月が経ち、徐々に仕事に慣れてきたかといったところです。

今後の仕事の上での目標は、そんな大層なものではありませんが、「やりたいと思ったことにはためらわずに手を挙げること」です。今現在具体的な目標がなくても、少しでも興味を持った業務にチャレンジしていくことで道は開けると思うからです。幸い、今の職場は年次が低くても挑戦することを歓迎してくださる環境なので、存分に生かしていきたいです。

目の前の仕事を覚えることもとても大切だとは思いますが、会計士の資格を使ってどんなことがしたいか？自分には何ができるか？を常に考えながら日々過ごしていきたいと思っています。

「合格までの道、今後の抱負」



青木 龍平

(2022年スポーツ科学部卒業)

☆2021年度合格☆

はじめに

この度は公認会計士稲門会の会報に寄稿する機会をいただき、大変光栄に思っております。本稿では、大学でスポーツ科学を専攻していた私が公認会計士を目指すに至った経緯や合格までの道、今後の目標について記載させていただきます。

公認会計士との出会い

私は大学で対面での実験を多く実施するスポーツの動作解析学を専攻していました。ですが、大学3年生の春、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、緊急事態宣言の発令に伴い、大学がフルリモートになってしまいました。私は、残された2年間で対面での実験が可能となるのか、大学生活で何か成果を残すことができるのかという先の見えない不安や焦りを感じました。そこで、自分で何とかしなければならぬと考えた私は、場所を選ばず、目に見える成果を出せることに取り組みたいと考えました。偶然にも、その時にアルバイト先の友人から日商簿記の試験を受けることを勧められたため、簿記の勉強を始めました。勉強を進めていくうちに簿記の面白さに惹かれた私は、この道で大きな成果を残したいと思い、会計の分野で最難関資格である公認会計士試験を受験することを決意しました。

合格までの道

公認会計士試験に合格するためには、膨大な勉強時間が必要です。大学の勉強と両立させることが大きな課題ではありましたが、幸か不幸か、大学の講義がフルリモートになったことで通学時間

がなくなり、まとまった勉強時間を確保することが可能となりました。大学4年の5月の短答式試験、8月の論文式試験を最初で最後の挑戦と考えて、文字通り全てをかけて勉強に打ち込みました。その努力が実り、11月の合格発表を笑顔で迎えることができました。1年以上にもわたって支えてくれた家族や、親身に相談に乗ってくださった予備校の先生には感謝してもきれません。

今後の目標

現在、私は公認会計士試験に合格して半年ほどの新人です。そのため、会計士業界について深く理解している自信はありませんが、フレッシュな目で自分なりの目標を記述させていただきます。

私は、「人に頼られる会計士」になりたいと考えております。頼られるという言葉は抽象的であるため、3点に分けて説明させていただきます。

まず、1点目は会計の専門家として十分な知識をつけることです。会計知識はもちろんのこと様々なクライアントのビジネス理解や、現代社会の情報をキャッチアップできるようになることが目標です。クライアントからどのような質問をされても自分の中で考え、一定の結論を出せるような会計士になりたいと思います。2点目は、人当たりの良い会計士になることです。お仕事をする相手の方に青木さんは物腰が柔らかく安心感があり、同じ空間にいてとても心地よいと思っていたことが目標です。3点目は、マネジメント能力をつけることです。どのようなプロジェクトであっても成果を出すまでのプロセスを理解し、チーム内の状況やプロジェクトの全体像を把握して適切な成果物を生み出すことが目標です。そのために日々の勉強を怠らず、法人内外から信頼されるために着実に努力を重ね、成長していきたいと考えております。

おわりに

改めてではございますが、この度は会報への寄稿という貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございます。まだまだ未熟ですが、公認会計士稲門会の一員として今後ともよろしく願いいたします。最後までお読みいただきありがとうございました。

「早稲田大学で進めている 奨学制度解説」



早稲田大学学生部奨学課
太田 圭治
(1997年教育学部卒業)

本学では、これまで数多くの奨学生を輩出してまいりました。現在は本学独自の奨学金だけで約150種類あり、そのすべてが返済の不要な給付型の奨学金となっております。2020年度は延べ約8,800名、総額約24億円の支援を行いました。また、奨学金による支援目的も、経済支援のみならず、成績優秀者を報奨するものなど、様々ございます。ここでは、全学部または全研究科を対象とした、特筆すべき奨学金についてご説明いたします。

1. 「めざせ！都の西北奨学金」(学部生対象)

現在、本学の奨学金で一番多くの学生が受給されており、校友の皆様方のご寄付により支援いただいている奨学金となります。この奨学金は一都三県以外の出身学部学生を対象とし、経済的な理由で上京することが難しく、本学への進学希望を諦めてしまうことがないよう、入学前に応募いただき、選考を通過した場合は、在学中4年間の支給を入学前に確約し、年間授業料のおよそ半額を毎年支援いたします(入学後は、毎年家計基準および成績基準による継続判定があります)。毎年約1,200名の学生が受給しており、本奨学金を受給された学生の方々が今度は校友として、後輩たちの支援につながることを我々としても強く願っています。

2. 「紺碧の空奨学金」(学部生対象)

2017年度から児童養護施設および里親養育家庭、ファミリーホーム等の出身者を対象とした「紺碧の空奨学金」という奨学金制度を開始しております。こちらも入学前に選考を行い、採用となった場合は、4年間にかかる学費等の全額を本奨学金で支援いたします。2019年度に初めて採用者5名を迎え入れ、現在は計7名の在学生在が受給しており、来年3

月には、当該奨学金受給者で初めての卒業生を輩出します。本制度がより多くの方々へ認知され、本学への進学を諦めない学生が一人でも多く増えることを願っています。

3. 「私費外国人留学生授業料減免奨学金」(学部・大学院の留学生対象)

留学生の受け入れにも、本学はかねてから積極的に取り組んでまいりました。授業料に加え、母国を離れての生活費・家賃など出費も多く、本学では、学部生・大学院生あわせて毎年約250名の学生について、本制度により年間授業料の半額分を支援しております。

4. 「大学院博士後期課程若手研究者養成奨学金」(大学院生対象)

博士後期課程に在学している30歳未満の正規学生を対象とした、在学中3回まで受給できる奨学金となります(年額40万円～60万円を支給)。在学中は論文執筆・学会発表など研究にかかる費用負担も増大します。本奨学金では、そういった学生が学費面における経済的な負担を軽減し、より自身の研究に専念できるよう、支援を行っております。

5. 「小野梓記念奨学金」[「小野梓記念外国人留学生奨学金」(学部・大学院生対象)]

経済的に修学困難である学生を対象とした奨学金となります。一定の家計基準と成績基準を満たした学生を対象として、両奨学金あわせて年間約270名の学生を支援しております。

この他にも、全学部・研究科のみならず、特定の学部および研究科等を対象とした奨学金が数多くございますが、その大半は校友の皆様によるご支援・ご寄付によって成り立っております。

特にこの2年間はコロナウイルス感染症の影響で、アルバイトも休業等で制限が掛かり、家庭からの支援も十分に受けることができず、奨学金や支援金に関する問合せが、学生および父母の方から時折寄せられます。国でも2020年度と2021年度に「緊急給付金(10万円または20万円/名)」の支給を行いました。さらに本学でも2020年度は約4,800名の学生に「緊急支援金(10万円/名)」を支給しました。コロナウイルスも終息に向かいつつありますが、経済状況が落ち着くまでには、もうしばらく時間が掛かりそうです。

校友の皆様におかれましては、日頃からのご支援に感謝申し上げますとともに、後輩が学びを継続できるよう、引き続きご支援をお願いできますと幸いです。

最近の母校の写真 その1



大隈記念講堂



早大通り越の大隈記念講堂



国際文学館(村上春樹ライブラリー) 奥は政治経済学部3号館



国際文学館(村上春樹ライブラリー) 内部



南門通り



南門 左は法学部8号館

最近の母校の写真 その2



大隈重信公銅像 奥は11号館



商学部11号館 左下は10号館



政治経済学部3号館



西早稲田キャンパス 理工学術院51号館

令和3年 公認会計士試験合格者（公認会計士稲門会調べ）

下記は、学部が早稲田大学卒業者のみの人数です。

早稲田大学大学院卒（他大学の学部卒業）の合格者が別途14名いますので、学部、大学院全体では早稲田大学出身合格者は140名です。

（主な大学別合格者）

	大 学 名	人数		大 学 名	人数
1	慶應義塾大学	178	6	立命館大学	49
2	早稲田大学	126	7	京都大学	41
3	明治大学	72	8	神戸大学	38
4	中央大学	65	9	大阪大学	36
5	東京大学	58	10	一橋大学	35

編集後記

今回は、公認会計士稲門会会報の前年までの編集担当の副会長の松下八寿彦氏始めとするベテランの方々からのご支援、ご教授を頂きながら、編集経験は初めての広報担当の幹事の抜水信博、小口敬、江黒崇史、高島知治ら4名と事務局でやっと編集を完了することができました。特に藤田世潤前会長には永年のご経験からのご助言も頂け、本当に助かりました。

他方、寄稿者の内合格者については、各監査法人別の幹事の皆様にご選定のご協力も頂きました。ユニークな活動をしている稲門会計士の寄稿者のご推薦には、他の役員の皆様のお手数をお掛けしましたことここで合わせて感謝を申し上げます。

昨年同様に母校の最近の写真の掲載をしております。皆様の在学中とキャンパスの雰囲気は大きく変わっています。変わり行く早稲田大学の雰囲気を少しでも味わって頂けましたら幸いです。

（広報常任幹事 抜水信博、小口敬、江黒崇史、高島知治）